I·O DATA

WN-B11/R

取扱説明書

139385-01

【ご注意】

1)本製品および本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品および本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2)本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3)本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
4)本製品は日本国外では使用できません。
5)本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関る設備や機器、及び海底中継機、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
6)本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
7)お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
8)弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。

● I-O DATAは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
● Microsoft,Windowsは、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。
● Apple, Macintosh, Power Macintosh, PowerBook, iMac, iBook, Power Mac, Mac, Mac OS, AirMac, Mac OS ロゴおよびその標章は、米国Apple Computer,Inc.の登録商標です。
●その他、一般に会社名、サービス名、ソフト名、製品名は各社の商標または登録商標です。

もくじ

もくじ ･････････････････････････････････ 1
必ずお守りください････････････････････････ 4
使用上の注意･････････････････････････････ 8

本製品を使ってインターネットに接続するまでの手順

以下の流れにしたがって、本製品を使う環境をつくりましょう。

使う前に････････････････････････････ 11
箱の中を確認する････････････････････････････ 12
動作環境を確認する･･････････････････････････ 13
各部のなまえとはたらき･･････････････････････ 17

設定準備をする････････････････････････ 19
①つなぐ前に確認する･････････････････････････ 20
②設定用パソコンをつなぐ･････････････････････ 25
③IPアドレスを設定する････････････････････････ 35
④IPアドレスを確認する････････････････････････ 44
⑤設定画面を表示させる････････････････････････ 48

インターネットに接続する ･････････････････ 53
①本製品をモデムに接続する･･･････････････････ 54
②設定画面を開く･･････････････････････････････ 56
③回線に接続する･･････････････････････････････ 58

必要なときに読むところ

本製品の詳しい設定や使用中のトラブルがあったときの解決法です。

他の設定をする ･･････････････････････････････ 67
基本設定 ･･････････････････････････････････ 68
WAN側設定 ･･････････････････････････････････ 68
LAN側設定 ･･････････････････････････････････ 69
無線LAN設定 ････････････････････････････････ 70
暗号化(WEP)の設定をする ････････････････････ 73
詳細設定 ･･････････････････････････････････ 78
アクセス制限 ･･･････････････････････････････ 78
仮想サーバ ････････････････････････････････ 82
特殊アプリ ････････････････････････････････ 86
DMZ ･･･････････････････････････････････････ 87
ダイナミックDNS ････････････････････････････ 88
高度なネットワーク設定 ･････････････････････ 90
DHCPサーバ ････････････････････････････････ 90
無線詳細設定 ･･･････････････････････････････ 92
スタティックルート ･････････････････････････ 96
ダイナミックルート ･････････････････････････ 99
本体管理設定 ･･････････････････････････････ 100
管理設定 ･･････････････････････････････････ 100
ステータス情報 ･････････････････････････････ 102
設定の保存と復元 ･･･････････････････････････ 104
ファームウェアの更新 ････････････････････････ 105

Windows(MSN) Messengerについて ･････････ 107
Windows(MSN) Messengerを利用する ････････････ 108
UPnPを設定する ･････････････････････････････ 109

リモートデスクトップについて ･･････････････ 111
リモートデスクトップを設定する ･･････････････ 112
インターネット側から利用する ････････････････ 116

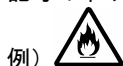
必ずお守りください

ここでは、お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。
ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

■警告及び注意表示

警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵記号の意味

この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）　「発火注意」を表す絵表示

この記号は禁止の行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）　「分解禁止」を表す絵表示

この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）　「電源プラグを抜く」を表す絵表示

⚠ 警告

本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守し、正しい手順で使用してください。

警告・注意事項を無視すると人体に多大な損傷を負う可能性があります。また、正しい手順で操作しない場合、予期せぬトラブルが発生する恐れがあります。ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意事項、正しい手順を厳守してください。

本製品をご自分で修理・分解・改造しないでください。

火災や感電、やけど、故障の原因となります。

修理は弊社修理センターにご依頼ください。分解したり、改造した場合、保証期間であっても有料修理となる場合があります。

煙がでたり変な臭いや音がしたら、すぐに使用を中止してください。

コンセントから電源プラグを抜いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

本製品の取り扱いは、必ず取扱説明書で接続方法をご確認になり、以下のことにご注意ください。

- ●接続ケーブルなどの部品は、必ず添付品または指定品をご使用ください。指定品以外を使用すると火災や故障の原因となります。
- ●ケーブルにものをのせたり、引っ張ったり、折り曲げ・押しつけ・加工などは行わないでください。火災や故障の原因となります。

本製品の取り付け、取り外し、移動の際は、本製品の取扱説明書をご確認になり、必ずパソコン本体・周辺機器および本製品の電源を切り、コンセントからプラグを抜いてから行ってください。

電源コードを抜かずに行うと、感電および故障の原因となります。

給電されているLANケーブルは絶対に接続しないでください。

給電されているケーブルを接続すると、発煙したり、火災の原因になります。

本製品をぬらしたり、水気の多い場所で使用しないでください。

お風呂場、降雨降雪中の屋外、海岸、水辺などでの使用は火災・感電・故障の原因となります。

故障や異常のまま、通電しないでください。

本製品に故障や異常がある場合は、必ずパソコンから取り外し、コンセントから電源プラグを抜いてください。また、絶対に通電をしないでください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

本製品を病院内で使用しないでください。

医療機器の誤動作の原因になることがあります。

心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離して使用してください。

電波によりペースメーカーの動作に影響を与える恐れがあります。

本製品を飛行機の中で使用しないでください。

飛行機の計器などの誤動作の原因になります。飛行機の中ではコンピュータから本製品を取り外してください。

日本国外で使用できません。

⚠ 注意

注意

本製品を使用中に、データが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。

取扱説明書などで、操作方法を確認して操作してください。
また、故障などに備えて定期的にバックアップを行ってください。

禁止

本製品は以下のような場所（環境）で保管・使用しないでください。

故障の原因となることがあります。

●振動や衝撃の加わる場所
●直射日光のあたる場所
●湿気やホコリが多い場所
●温湿度差の激しい場所
●熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒータなど）
●強い磁力・電波の発生する物の近く
（磁石、ディスプレイ、スピーカ、ラジオ、無線機など）
●水気の多い場所（台所、浴室など）
●傾いた場所 ●本製品通風孔をふさぐような場所（保管は問題ありません）
●腐食性ガス雰囲気中（CI_2、H_2S、NH_3、SO_2、NO_Xなど）
●静電気の影響の強い場所
●保温性・保湿性の高い（じゅうたん・スポンジ・ダンボール箱・発泡スチロールなど）場所（保管は問題ありません）

禁止

本製品は精密部品です。以下のことにご注意ください。

●落としたり、衝撃を加えたり、無理な力を加えたりしない
●本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない
●重いものを上にのせない
●本製品内部に液体、金属、たばこの煙などの異物を入れない

禁止

本製品のコネクタ部分には直接手を触れないでください。

静電気が流れ、部品が破壊されるおそれがあります。また、静電気は衣服や人体からも発生するため、本製品の取り付け・取り外しは、スチールキャビネットなどの金属製のものに触れて、静電気を逃がした後で行ってください。

禁止

パソコンから本製品にアクセス中にパソコンや本製品の電源を切ったり、リセットしないでください。

故障の原因になったり、データが消失するおそれがあります。

厳守

本製品の電源をOFFにした後、再度電源をONにする場合は、5秒以上待ってください。

瞬時に電源をONにすると、正常に本製品がリセットされない場合がありあます。

使用上の注意

本製品は、2.4GHz帯域の電波を使用しています。
本製品を使用する上で、無線局の免許は必要ありませんが、以下の注意をご確認ください。

・以下の近くでは使用しないでください。

・ペースメーカー等の産業・科学・医療用機器等
・工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）
・特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

上記の近くで本製品を使用すると、電波の干渉を発生する恐れがあります。
そのため、通信ができなくなったり、速度が遅くなったりする場合があります。

・携帯電話、PHS、テレビ、ラジオを、本製品の近くではできるだけ使用しないでください。

携帯電話、PHS、テレビ、ラジオ等は、無線LANとは異なる電波の周波数帯を使用しています。
そのため、本製品の近くでこれらの機器を使用しても、本製品の通信およびこれらの機器の通信に影響はありません。
ただし、これらの機器を無線LAN製品に近づけた場合は、本製品を含む無線LAN製品が発する電磁波の影響によって、音声や映像にノイズが発生する場合があります。

・間に鉄筋や金属およびコンクリートがあると通信できません。

本製品で使用している電波は、通常の家屋で使用されている木材やガラス等などは通過しますので、部屋の壁に木材やガラスがあっても通信できます。
ただし、鉄筋や金属およびコンクリートなどが使用されている場合、電波は通過しません。部屋の壁にそれらが使用されている場合、通信することはできません。
同様にフロア間でも、間に鉄筋や金属およびコンクリート等が使用されていると通信できません。

2.4GHz帯使用の無線機器について

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器等のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

・この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運営されていないことを確認してください。

・万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数帯を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。

・その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きた場合は、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：サポートセンター　電話：　金沢　076-260-3644
東京　03-3254-1144

・*その他のご注意*

本製品は非常に精密にできておりますので、お取り扱いに際しては十分注意してください。

・ラジオやテレビ、オーディオ機器の近くでは高周波の信号により、ノイズを与えることがあります。

・モータなどノイズが発生する機器の近くでは誤動作することがありますので、必ず離してお使いください。

・本製品の修理は弊社修理センターにご依頼ください。
改造などを行って、電気的および機械的特性を変えて使用することは絶対にお止めください。

使う前に

ここでは、本製品を使う前の作業について説明します。

箱の中を確認する

内容物リストを確認します。

☞ 12ページ

▼

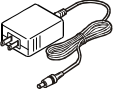
動作環境を確認する

本製品を使うことができる機種やOSなどを確認します。

☞ 13ページ

▼

各部のなまえとはたらき

本製品の各部のなまえとはたらきを確認します。

☞ 17ページ

箱の中を確認する

ご使用の前に以下のものがそろっていることを □ にチェックをつけながらご確認ください。
万一、不足品がありましたら、弊社サポートセンターまでお知らせください。

内容物	
□ アクセスポイント付きブロードバンドルータ（１台）	□ LANストレートケーブル（１本：約１m）
□ ACアダプタ（１個）	□ 背面取付マグネット（２個）
☑ 取扱説明書（１冊：本書）	□ 壁掛用取付ネジ（２個）
	□ ハードウェア保証書（１枚）
	□ 「無線LANについて」シール（１枚）

■箱や梱包材は大切に保管し、修理などの輸送の際にご利用ください。
■イラストは若干異なる場合があります。

《ユーザー登録やサポートソフトのダウンロードについて》

ユーザー登録をする際や、弊社ホームページよりサポートソフトをダウンロードする際にシリアル番号が必要な場合があります。
シリアル番号は本製品に貼られているシールに印字されている12桁の英数字です。（ 例： ABC1234567ZX ）

▼ここにシリアル番号をメモしてください。

●ユーザー登録 ⇒ **http://www.iodata.jp/regist/**
●サポートソフトのダウンロード ⇒ **http://www.iodata.jp/lib/**

動作環境を確認する

通信できる無線LAN機器
IEEE802.11b準拠の無線LAN製品と通信できます。 弊社製品例（最大リンク速度） ●WN-G54シリーズ（11Mbps） ●WN-AGシリーズ（11Mbps） ●WN-B11シリーズ※（11Mbps） ●WN-ABシリーズ（11Mbps）

※WN-B11/LANは除く

■本製品はアクセスポイント機能付き無線ブロードバンドルータです。
そのため、弊社製アクセスポイント「WN-B11/AXPH」など他のアクセスポイント（本製品同士も含む）とは無線通信できません。（アクセスポイント同士の無線通信はできません。）

■以下の弊社製品とは無線で通信できません。

- ・無線 LAN PC カード「PCWN-W10」
- ・コードレスネットワークシンフォニーシリーズ「WN-S/560」「WN-S/PCI」「PCWN-S」
- ・無線スイッチングハブ「WNA-FSWH4」
- ・WN-A54 シリーズ
- ・WN-B11/LAN

■弊社製電源延長 BOX「WN-OP/POW」は使用できません。

本製品の設定ができるパソコン	
機種	OS（日本語版に限る）
LANアダプタを使用できる下記の機種 ・NEC PC98-NXシリーズ ・DOS/Vマシン ※弊社では、OADG加盟メーカーのDOS/Vマシンで動作確認しています。	・Windows XP ・Windows 2000 ・Windows Me ・Windows 98 Second Edition
LANアダプタを使用できる下記の機種 ・Power Macintosh ・iMac、iBook、PowerBook	・Mac OS 8.1～9.2.2※ ・Mac OS X（10.1～10.2.6）

※ AirMacはMac OS 9.0.4以降対応です。
また、AirMac ExtremeはMac OS Xのみ対応です。
AirMac、AirMac Extremeは常に最新のバージョンをご利用ください。

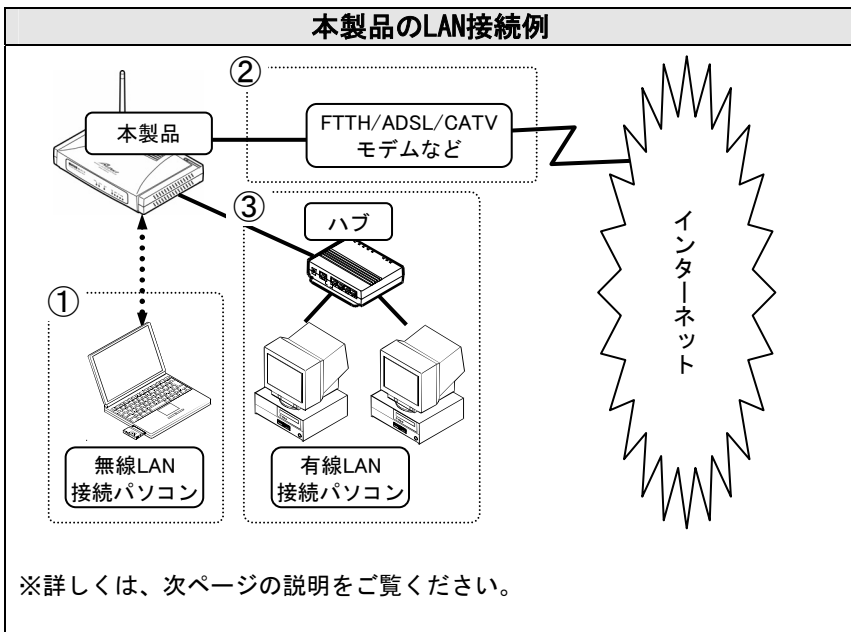
弊社では、上記のOSでご利用いただく場合のみをサポート/保証範囲とさせていただいております。UNIX系OSなどでご利用いただく場合はサポート/保証対象外となります。

設定に必要なソフトウェア
本製品を設定するには、以下のバージョンのWebブラウザが必要です。お持ちで無い場合は、別途ご用意ください。 Internet Explorer バージョン5.0以上 Internet Explorer for Macintosh バージョン5.1.7以上

Internet Explorerのバージョン情報は、Internet Explorer画面の[ヘルプ]→[バージョン情報]で確認できます。

インターネット接続環境の準備、確認 （下記をご用意、ご確認ください。）	
契約	インターネットに接続するには、FTTH/ADSL/CATV（インターネットサービスプロバイダ）との契約が必要です。本製品を使用する前に契約しておいてください。
インターネット接続の確認	**本製品を接続する前に**、パソコンとモデムを直接つないで、インターネットに接続できることをご確認ください。方法について、詳しくはプロバイダにお問い合わせください。
プロバイダの資料	本製品を設定する際に、プロバイダの資料が必要になります。本製品の設定前にご用意ください。

本製品のLAN接続例

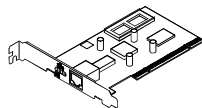
※詳しくは、次ページの説明をご覧ください。

①：無線LAN接続する

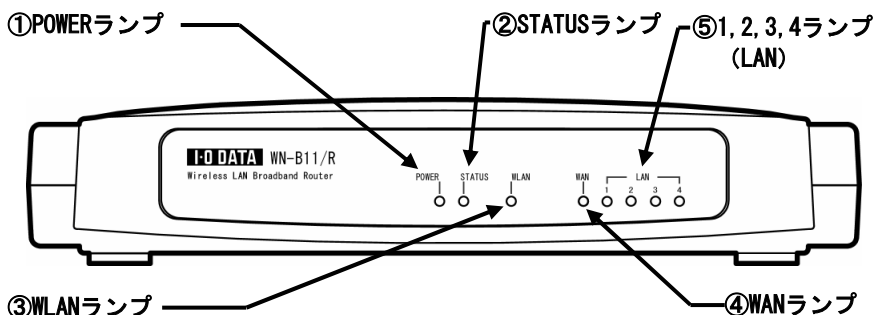
【本製品と通信できる無線LAN機器】（13ページ）を搭載したパソコンと通信できます。
（無線LANアダプタは、パソコンへ取り付け、
ドライバソフトなどをインストールしておきます。）

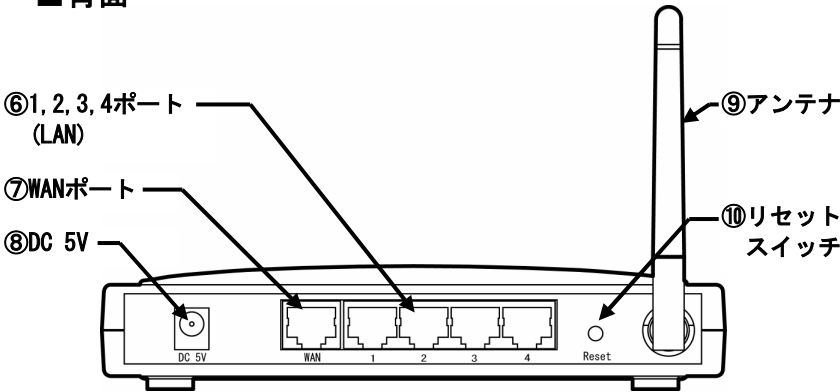
②：本製品を通してインターネットに接続する

プロバイダ指定のFTTH/ADSL/CATVモデムが必要です。
本製品の[WAN]ポート ⇔ FTTH/ADSL/CATVモデムを、LANケーブルで接続するとインターネットに接続できます。
※本製品を使用する場合、フレッツ接続ツールなどのPPPoEクライアントソフトウェアは使用しません。

③：有線LAN接続する場合

LANポートを搭載したパソコンと接続できます。
（LANアダプタは、パソコンへ取り付け、ドライバソフトなどをインストールしておきます。
パソコンによっては、はじめからついているものもあります。）
本製品のLANポート([1]～[4])の数以上のパソコンを接続する場合は、
別途ハブとパソコンの台数分のLANケーブルが必要です。

各部のなまえとはたらき

■前面

前面		
名称	色	機能
①POWERランプ	緑	点灯：電源ON 消灯：電源OFF
②STATUSランプ	赤	点灯：起動時・システムチェック時・エラー時 消灯：通常時
③WLANランプ	緑	点灯：無線LANが有効の状態 消灯：無線LANが無効の状態
④WANランプ	緑	点灯：WAN側が接続中 点滅：WAN側でデータを送受信中 消灯：WANポートのリンクが確立していない状態
⑤1,2,3,4ランプ (LAN)	緑	点灯：有線LANが接続中 点滅：有線LANでデータを送受信中 消灯：LANポートのリンクが確立していない状態

■背面

背面	
名称	機能
⑥1,2,3,4ポート (LAN)	LANケーブルでパソコンやハブを接続します。 ※10Mbps/100Mbpsを自動判別します。また、LANクロスケーブル /LANストレートケーブルも自動判別します。
⑦WANポート	LANケーブルでFTTH/ADSL/CATVモデムを接続します。 ※10Mbps/100Mbpsを自動判別します。また、LANクロスケーブル /LANストレートケーブルも自動判別します。
⑧DC 5V	付属のACアダプタを接続します。
⑨アンテナ	製品添付のアンテナです。可動しますので、設置状況に応じて調整してください。 （付属のアンテナ以外を接続して使用すると、法律で罰せられることがあります。）
⑩リセット スイッチ	本製品の設定を初期値に戻します。本製品設定画面のパスワードを忘れてしまった場合などに使用します。（【出荷時設定に戻す】120ページ参照）

設定準備をする

本製品を設定するための環境を作ります。（本製品の設定画面を開けるようにします。）

①つなぐ前に確認する

本製品と設定用パソコンをつなぐ前の確認をします。

☞ 20ページ

▼

②設定用パソコンをつなぐ

本製品と設定用パソコンをつなぎます。

☞ 25ページ

▼

③IPアドレスを設定する

設定用パソコンのIPアドレスを変更します。

☞ 35ページ

▼

④IPアドレスを確認する

設定用パソコンの変更したIPアドレスを確認します。

☞ 44ページ

▼

⑤設定画面を表示させる

本製品のWeb設定画面を開きます。

☞ 48ページ

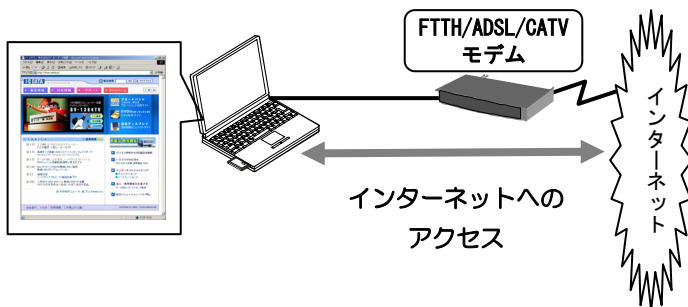
①つなぐ前に確認する

ここではまだ本製品を接続しないでください。

【①つなぐ前に確認する】の作業は、本製品を接続しない状態で行います。
本製品との接続は、【②設定用パソコンをつなぐ】で行います。

確認①　インターネット接続を確認する

FTTH/ADSL/CATVモデムとパソコンを直結して、インターネットに接続できることを確認します。

プロバイダからの資料にしたがって設定してください。
WEBブラウザを起動して、ホームページを表示できることをご確認ください。
接続方法は、プロバイダの資料にしたがってください。

インターネット接続を確認したら、パソコンとモデムを直結したまま【確認②　現在のIPアドレスを確認する】（次ページ）へお進みください。

確認②　現在のIPアドレスを確認する

ここではまだ本製品を接続しないでください。

【確認②　現在のIPアドレスを確認する】の作業も、本製品を接続しない状態で行います。
（パソコンとモデムを直結して行います。）

本製品を接続しない状態でのIPアドレスを記入してください。

IPアドレスの調べ方は、ページ下部の参照ページをご覧ください。

▼確認したIPアドレスを記入してください。

IPアドレス	. . .

※ここで確認したIPアドレスが　**192.168.0.xxx**　である場合、後でモデムと本製品を接続する前に、本製品のIPアドレスを変更する必要があります。詳しくは、50ページの参考をご覧ください。

IPアドレスを記入したら、【②設定用パソコンをつなぐ】（25ページ）へお進みください。

～IPアドレスの調べ方～

▼お使いのOSによって調べ方が異なります

Windows XP/2000の場合 ……………………………………………次ページ

Windows Me/98 SEの場合……………………………………………23ページ

Mac OS Xの場合…………………………………………………………24ページ

Mac OS (Classic)の場合………………………………………………24ページ

●Windows XP/2000でのIPアドレスの調べ方

1 パソコンとモデムが、LANケーブルで直結されていることを確認します。
また、モデムの電源が入っていることも確認します。
ここでは、本製品を接続しないときのIPアドレスを確認します。

2 [コマンドプロンプト]を起動します。
⇒Windows XPの場合
［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］をクリックします。
⇒Windows 2000の場合
［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］をクリックします。

3 IPCONFIGと入力し、[ENTER]キーを押します。

```
C:¥>IPCONFIG
```

4 IPアドレスを確認して、21ページに書き込みます。
※下記のアドレスは架空のものです。

```
IP Address .................... :202.■■.10.1
Subnet Mask ................... :255.■■.255.0
Default Gateway ............... :202.■■.10.2
```

確認

5 EXIT　と入力後、[Enter]キーを押して画面を閉じます。

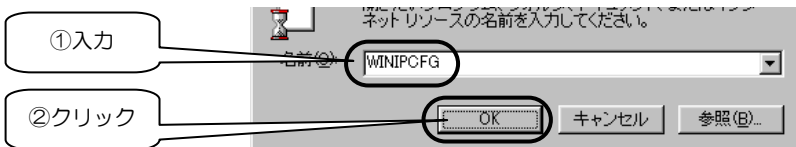
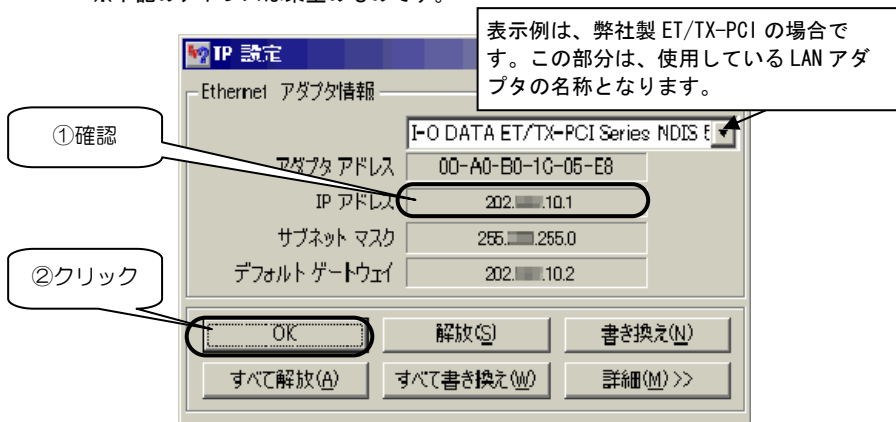
```
C:¥>EXIT
```

6 Windowsを終了し、LANケーブルを抜きます。

●Windows Me/98 SEでのIPアドレスの調べ方

1 パソコンとモデムが、LANケーブルで直結されていることを確認します。
また、モデムの電源が入っていることも確認します。
ここでは、本製品を接続しないときのIPアドレスを確認します。

2 ［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックします。

3 ［名前］に WINIPCFG と入力し、［OK］ボタンをクリックします。

4 IPアドレスを確認して、21ページに書き込みます。
書き込んだら、[OK]ボタンをクリックします。
※下記のアドレスは架空のものです。

5 Windowsを終了して、LANケーブルを抜きます。

●Mac OS X でのIPアドレスの調べ方

1 パソコンとモデムが、LANケーブルで直結されていることを確認します。
また、モデムの電源が入っていることも確認します。
ここでは、本製品を接続しないときのIPアドレスを確認します。

2 ［アップルメニュー］→［場所］→[ネットワーク環境設定]をクリックします。

3 ［表示：］でお使いのLANアダプタを選択します。

4 表示されたIPアドレスを確認して、21ページに書き込みます。

5 Mac OSを終了して、LANケーブルを抜きます。

●Mac OS（Classic）でのIPアドレスの調べ方

1 パソコンとモデムが、LANケーブルで直結されていることを確認します。
また、モデムの電源が入っていることも確認します。
ここでは、本製品を接続しないときのIPアドレスを確認します。

2 ［アップルメニュー］→［コントロールパネル］内の［TCP/IP］をクリックします。

3 ［経由先：］でお使いのLANアダプタを選択します。

4 表示されたIPアドレスを確認して、21ページに書き込みます。

5 Mac OSを終了して、LANケーブルを抜きます。

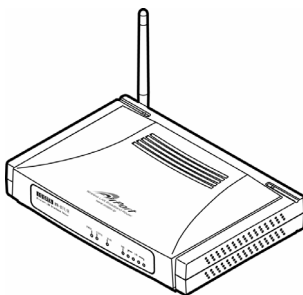
②設定用パソコンをつなぐ

本製品をパソコンに接続し、設定用パソコンの準備をします。

本製品を設置する

●横置き

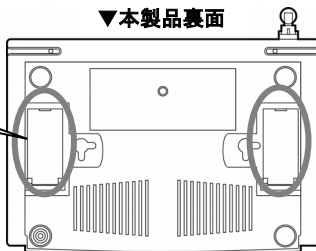
通常は横置きで設置します。

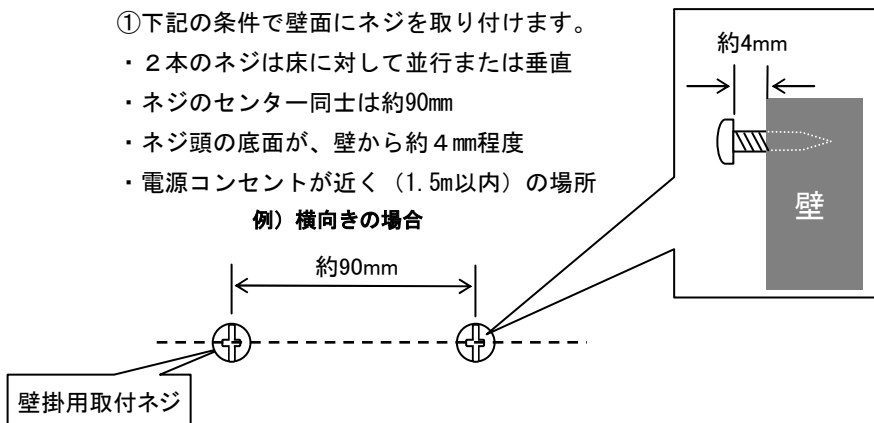
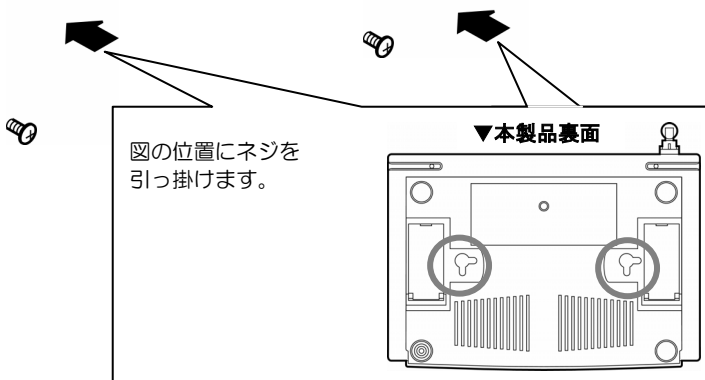
アンテナは図のように立ててお使いください。

●壁掛け

方法１か方法２で壁掛けすることができます。環境にあった方法をお選びください。

方法１：添付の背面取付マグネットを使用します。

①本製品裏面（図の位置）に背面取付マグネットを取り付けます。

②スチールキャビネットなど、磁石で固定できる面に取り付けます。

方法２：添付の壁掛用取付ネジを使用します。
（縦向きまたは、横向きで壁掛けできます。）

①下記の条件で壁面にネジを取り付けます。
- ２本のネジは床に対して並行または垂直
- ネジのセンター同士は約90㎜
- ネジ頭の底面が、壁から約４㎜程度
- 電源コンセントが近く（1.5m以内）の場所

②本製品裏面の凹部にネジを引っ掛けて固定します。
本製品が傾いたり、ガタつく場合は、２本のネジ位置、ネジ間隔、ネジ頭の長さを調整してください。

注意！

［壁掛用取付ネジ］を取り付ける壁の材質には、注意してください。
石膏ボードや薄いベニヤ板などでは、［壁掛用取付ネジ］がゆるんで本製品が落下する恐れがあります。

本製品をパソコンに接続する

ここではまだモデムを接続しないでください。

FTTH/ADSL/CATVモデムの接続は本製品の設定がすべて終了した後に行います。ここでは、本製品と設定用パソコンを１対１で接続してください。

設定用パソコンの種類を確認します。

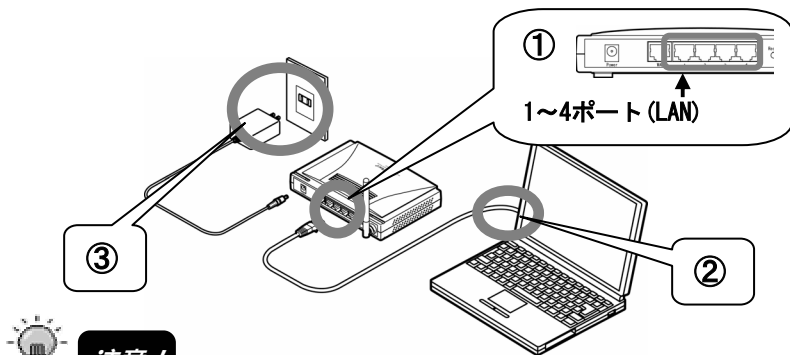
設定は、有線LAN接続または無線LAN接続のどちらからでも行えます。
設定時のトラブルを避けるため、有線LANから設定することをおすすめします。

有線LAN接続のパソコン	無線LAN接続のパソコン
下記へお進みください。	次ページへお進みください。

有線LAN接続のパソコンで設定する場合

添付のACアダプタとLANケーブルを接続します。

①パソコンの電源を切った状態で、本製品の1～4ポート(LAN)のいずれかに添付のLANストレートケーブルをつなぎます。
②LANストレートケーブルをパソコンのLANポートにつなぎます。
③ACアダプタを本製品の[DC 5V]につなぎ、コンセントに接続します。

注意！

- ACアダプタは必ず添付のものをご使用ください。
- ACアダプタを抜いた後、再度挿す場合は5秒以上待ってください。

以上で取り付けは終了です。【③IPアドレスを設定する】（35ページ）へお進みください。

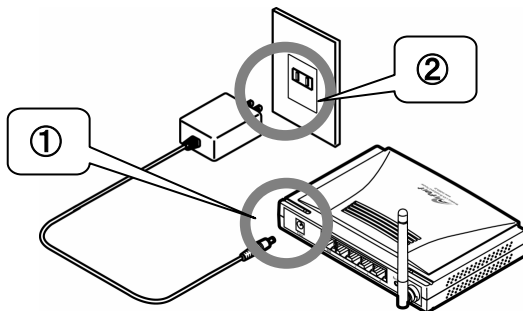
本製品をパソコンに接続する（つづき）

LAN ケーブルを接続してから設定する場合は、無線 LAN の設定は必要ありません。
【③IP アドレスを設定する】（35 ページ）へお進みください。

無線LAN接続のパソコンで設定する場合

1 添付のACアダプタのみを接続します。

①本製品の[DC 5V]にACアダプタのみをつなぎます。

②ACアダプタをコンセントに接続します。

2 無線LANアダプタを設定します。

パソコン（無線LANアダプタ）側の設定を本製品の初期値（次ページ参照）と一致させます。設定方法は無線LANアダプタの取扱説明書をご覧ください。

また、30ページ以降の手順を参考にしてください。

注意！

・ACアダプタは必ず添付のものをご使用ください。
・ACアダプタを抜いた後、再度挿す場合は5秒以上待ってください。

無線LANアダプタの設定が完了したら、【③IPアドレスを設定する】（35ページ）へお進みください。

本製品をパソコンに接続する（つづき）

《パソコン(無線LANアダプタ)側の設定内容》

項目	本製品の初期値	無線LANアダプタ側で設定する値
通信モード	Infrastructure	［Infrastructure］（インフラストラクチャ)に設定
SSID (ESS-ID)	default	［default］に設定 ※大/小文字の区別あり
チャンネル	6 ch	設定の必要はありません。 ※インフラストラクチャモードで動作させる場合は、無線LANアダプタが本製品のチャンネルへ自動的に合わせるので設定の必要はありません。 ※弊社製無線LANアダプタの場合は、インフラストラクチャモードの場合、チャンネルを設定できない仕様となっています。
暗号キー (WEP Key)	無効	［無効］や［なし］などに設定

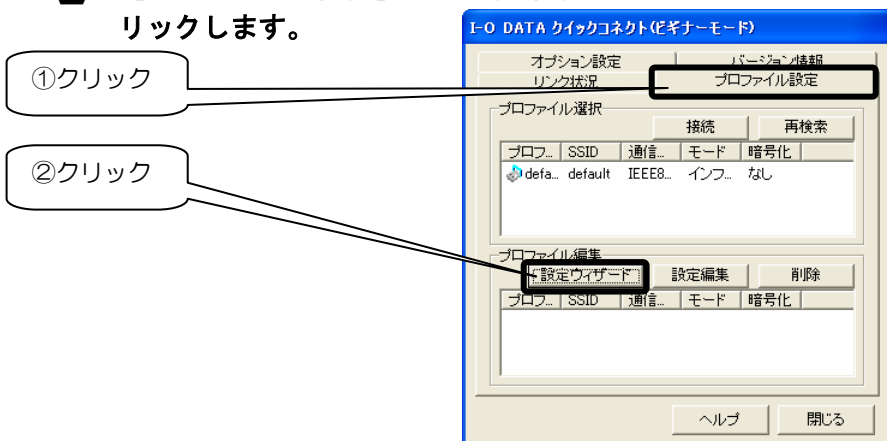
次ページ以降は、LANアダプタ側の設定例です。

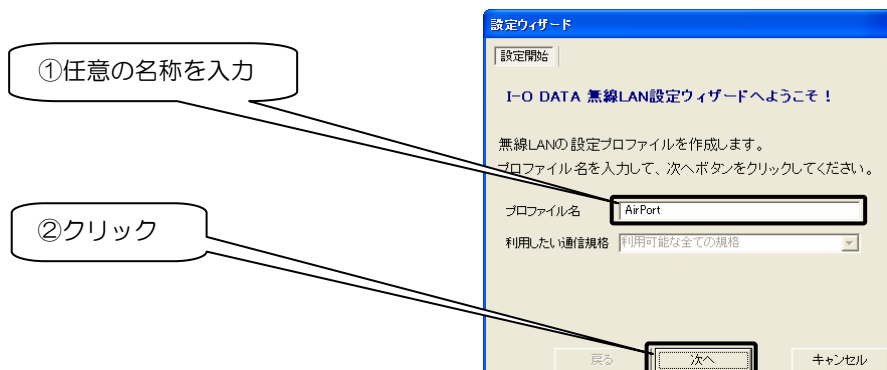
WN-B11/CBLでの設定例 ························ 次ページ
Mac OS Xでの設定例 ·························· 33ページ
Mac OS (Classic)での設定例 ··················· 34ページ

WN-B11/CBLでの設定例

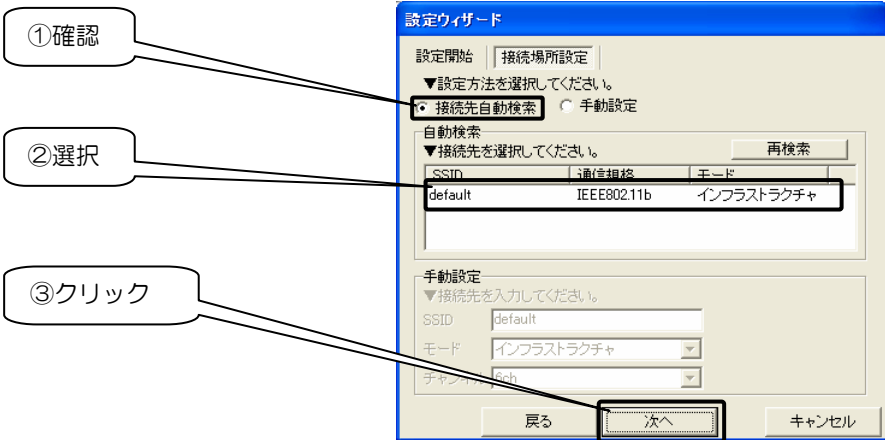
1 **クイックコネクトを起動します。**

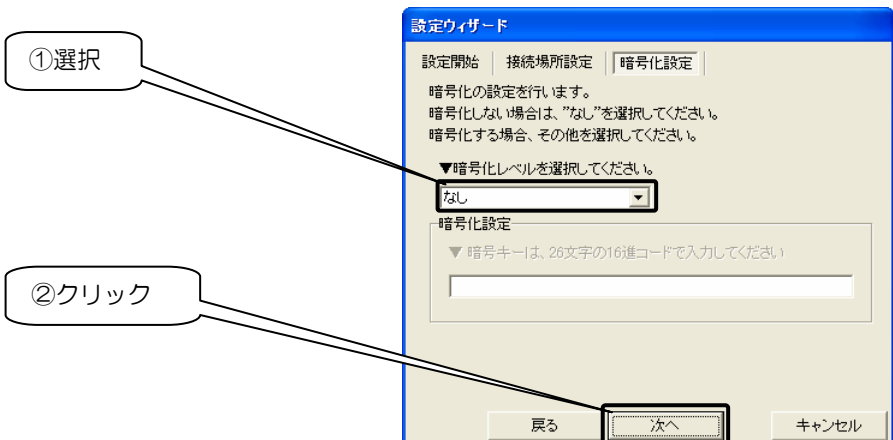
［スタート］→［すべてのプログラム］（［プログラム］）→［I-O DATA 無線LAN］→［クイックコネクト］を順にクリックします。

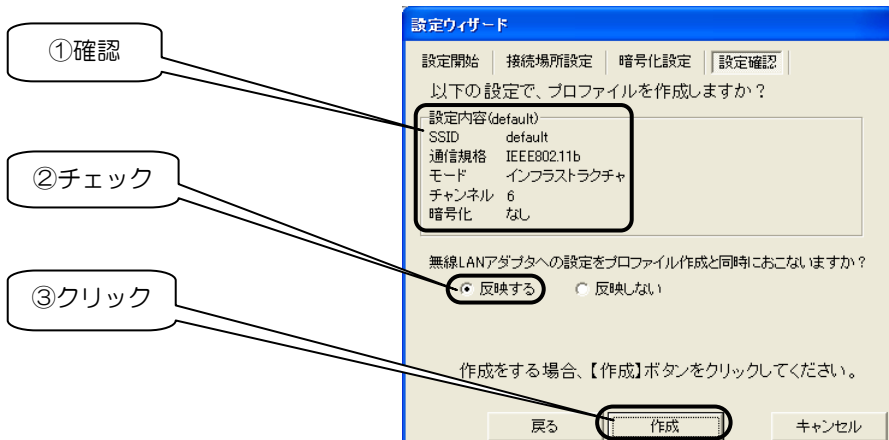
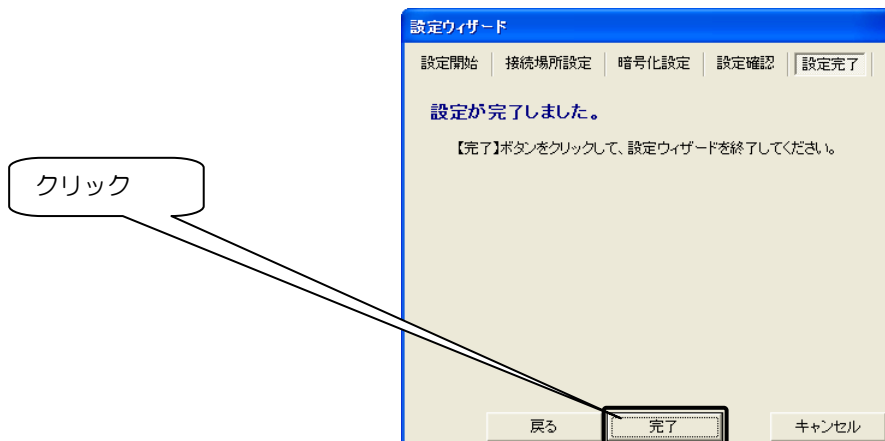
2 **［プロファイル設定］タブで、［設定ウィザード］ボタンをクリックします。**

3 **［プロファイル名］を入力し、［次へ］ボタンをクリックします。**

プロファイル名は半角文字100文字（全角文字50文字）までのお好きな名前を入力できます。

WN-B11/CBLでの設定例(つづき)

4 接続先を選びます。

①[接続先自動検索]にチェックが付いていることを確認します。
②本製品のSSID (default) となっている接続先を選択します。
③[次へ]ボタンをクリックします。

5 暗号化設定をします。

①暗号化レベルで[なし]を選択します。
②[次へ]ボタンをクリックします。

WN-B11/CBLでの設定例(つづき)

6 設定内容を確認し、[反映する]にチェックを付けて、[作成]ボタンをクリックします。

7 [完了]ボタンをクリックします。

Mac OS Xでの設定例

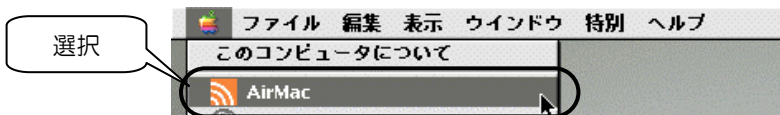
1 メニューバーのAirMacアイコンをクリックし、[AirMacを入にする]を選択します。

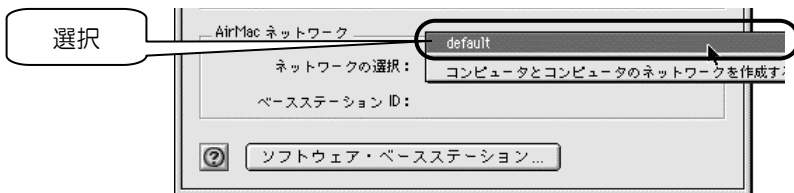
2 AirMacのメニューから［default］を選択します。

[default]は、本製品のSSID(初期値)です。SSIDは自動的に検索されます。

3 メニューバー上のAirMacアイコンが になっていることを確認します。

Mac OS（Classic）での設定例

1 ［アップルメニュー］→［AirMac］をクリックします。

2 ［AirMacネットワーク］内の［ネットワークの選択］で［default］を選択します。

［default］は、本製品のSSID（初期値）です。SSIDは自動的に検索されます。

3 ［状況］内にSSID（default）と信号レベルが表示されていることを確認します。

③IPアドレスを設定する

設定用パソコンのIPアドレスを、自動的に取得する設定（[IPアドレスを自動的に取得]、[DHCPサーバーから取得] など）に設定します。

設定用パソコンのIPアドレスを自動的に取得するように設定します。
下記の該当するページをご覧ください。

～IPアドレスの設定変更～
▼お使いのOSによって設定方法が異なります

Windows XPの場合‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 次ページ
Windows 2000の場合‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 38ページ
Windows Me/98 SEの場合‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 40ページ
Mac OS Xの場合‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 42ページ
Mac OS (Classic)の場合‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 43ページ

Windows XPでIPアドレスを設定する

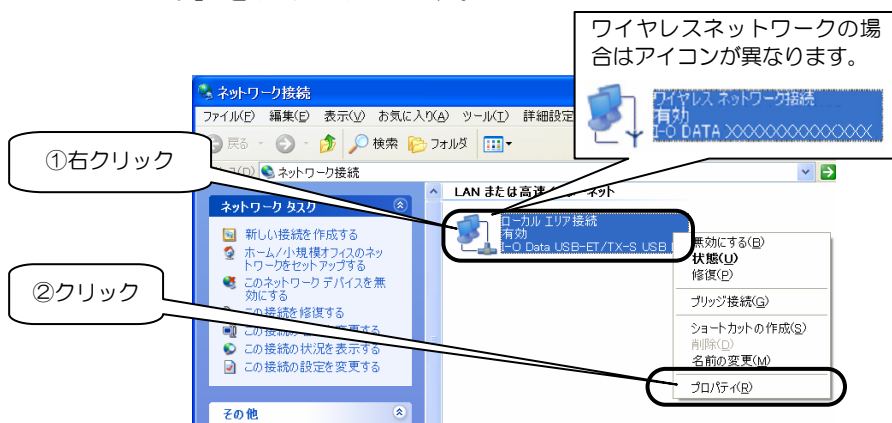
1 パソコンの電源を入れ、コンピュータの管理者のアカウントでログオンします。

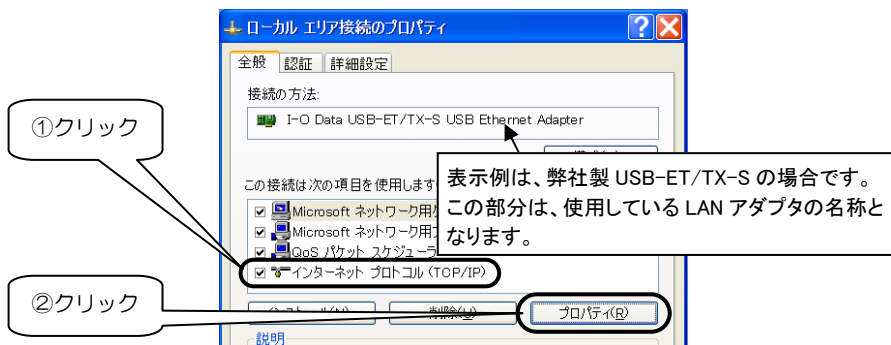
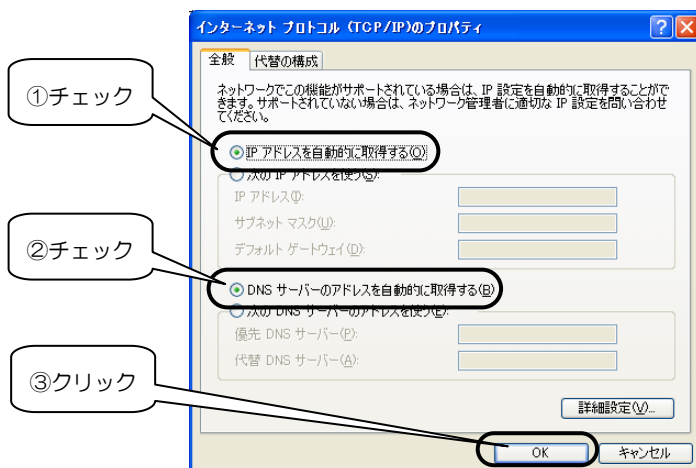
2 [スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。

3 [ネットワークとインターネット接続]をクリックします。

[クラシック表示]の場合は、[ネットワーク接続]アイコンをダブルクリックして手順5へお進みください。

4 [ネットワーク接続]をクリックします。

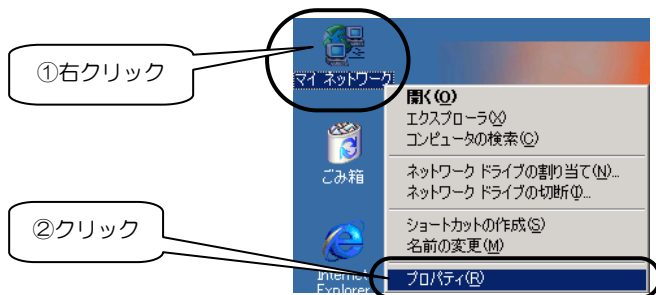
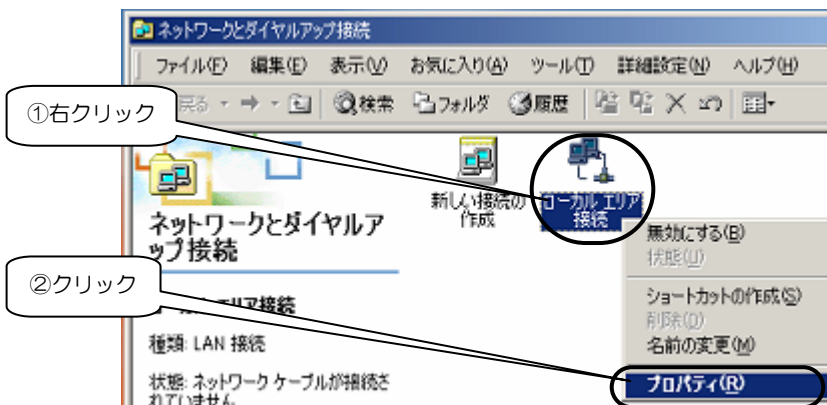
5 [ローカルエリア接続]（無線LANの場合は、[ワイヤレスネットワーク接続]）を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。

Windows XPでIPアドレスを設定する（つづき）

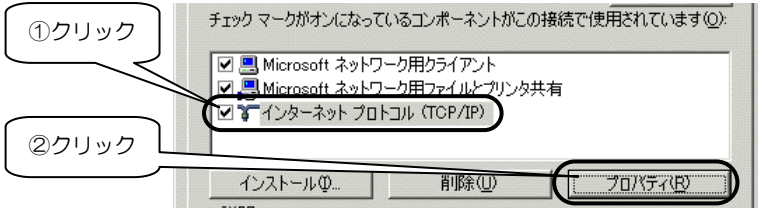
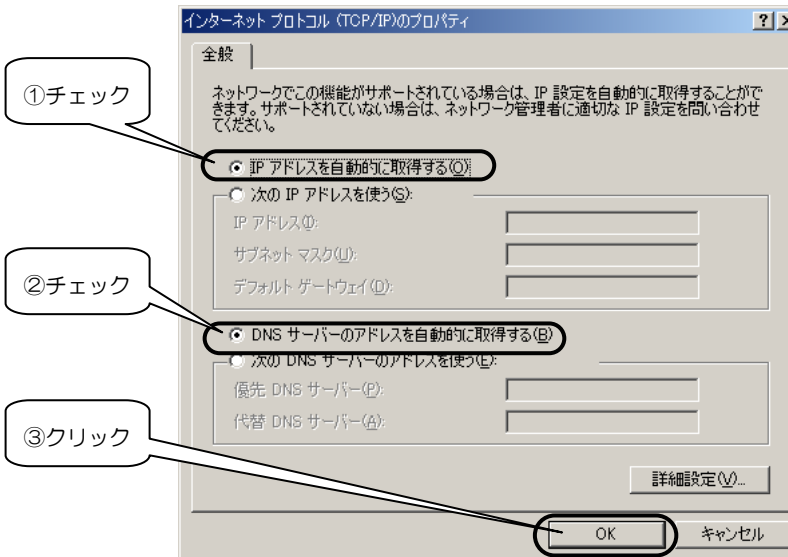
6 ［インターネットプロトコル（TCP/IP）］をクリックし、［プロパティ］ボタンをクリックします。

7 ［IPアドレスを自動的に取得する］と［DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する］にチェックして、［OK］ボタンをクリックします。

8 すべての画面を閉じて、パソコンを再起動します。

【④IPアドレスを確認する】（44ページ）へお進みください。

Windows 2000でIPアドレスを設定する

1 パソコンの電源を入れ、Administrators権限でWindows 2000にログオンします。

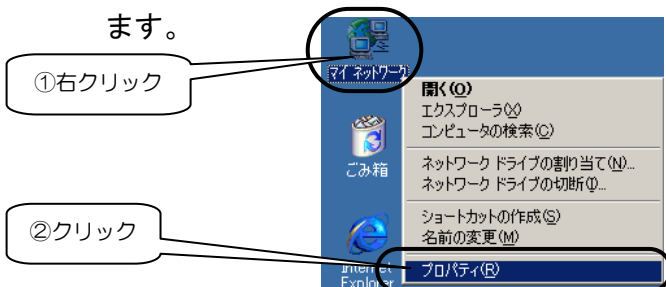
2 ［マイネットワーク］を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。

3 ［ローカルエリア接続］を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。

Windows 2000でIPアドレスを設定する（つづき）

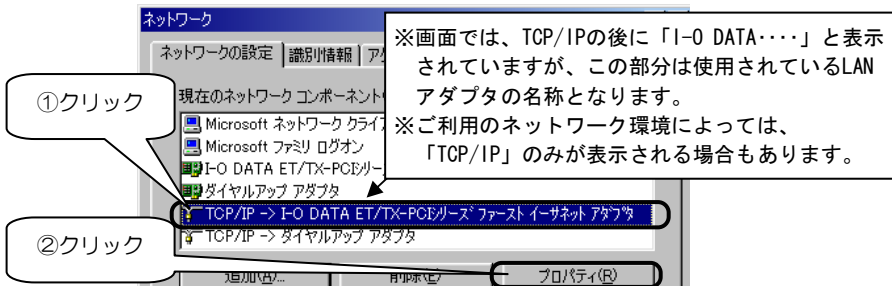
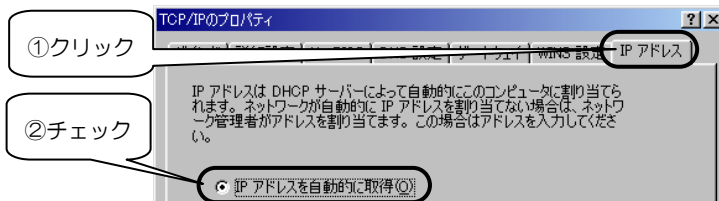
4 ［インターネットプロトコル（TCP/IP）］をクリックし、［プロパティ］ボタンをクリックします。

5 ［IPアドレスを自動的に取得する］をチェックし、［DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する］をチェック後、［OK］ボタンをクリックします。

6 すべての画面を閉じて、パソコンを再起動します。

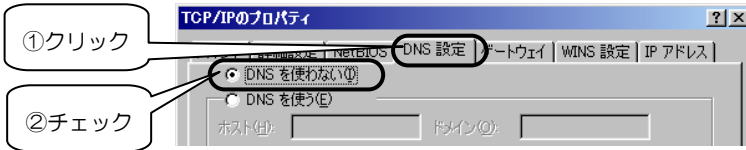
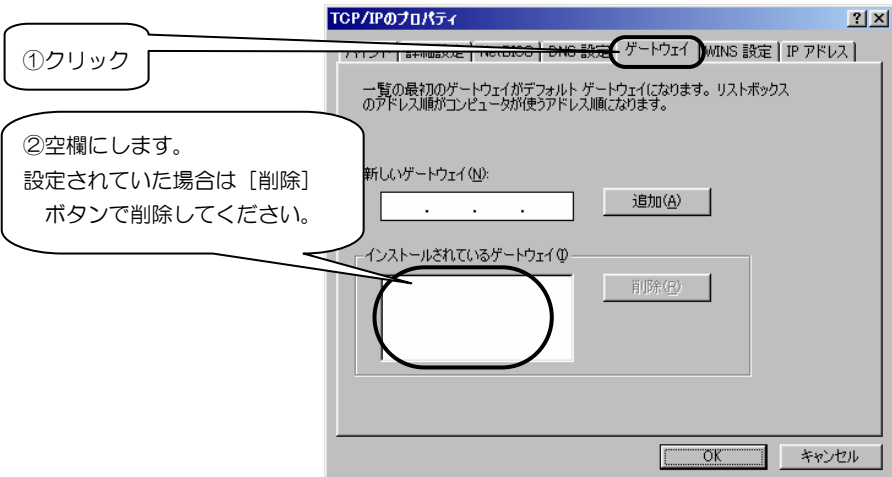
【④IPアドレスを確認する】（44ページ）へお進みください。

Windows Me/98 SEでIPアドレスを設定する

1 パソコンの電源を入れ、Windowsを起動します。

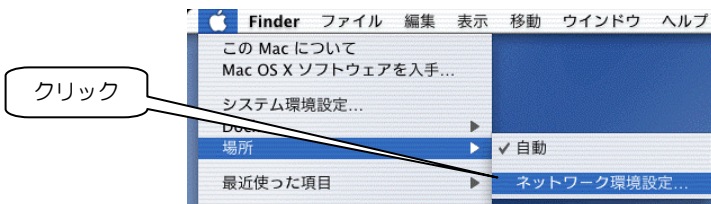
2 ［マイネットワーク］（または［ネットワークコンピュータ］）を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。

3 ［TCP/IP］（あるいは［TCP/IP -> xxxxxxx］）をクリックし、［プロパティ］ボタンをクリックします。

※アダプタが複数ある場合、［TCP/IP－>xxxxxxxx］と表示されます。

4 ［IPアドレス］タブをクリックして、［IPアドレスを自動的に取得］をチェックします。

Windows Me/98 SEでIPアドレスを設定する（つづき）

5 ［DNS設定］タブをクリック後、［DNSを使わない］をチェックします。

6 ［ゲートウェイ］タブをクリック後、すでに設定されているゲートウェイがある場合は、［削除］ボタンで設定を削除してください。

7 ［OK］ボタンをクリック後、パソコンを再起動します。

【④IPアドレスを確認する】（44ページ）へお進みください。

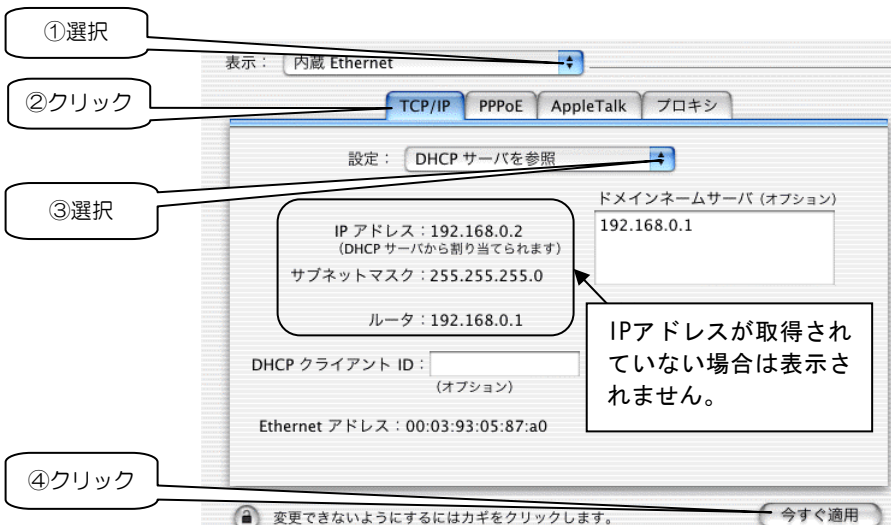
Mac OS XでIPアドレスを設定する

1 [場所]→[ネットワーク環境設定]をクリックします。

2 ネットワーク環境設定をします。

①[表示]で、ご使用のLANアダプタ（内蔵Ethernet、AirMacなど）を選びます。

②[TCP/IP]をクリックします。

③[設定]で[DHCPサーバを参照]を選びます。

④[今すぐ適用]をクリックします。

【④IPアドレスを確認する】を読み飛ばして、
【⑤設定画面を表示させる】（48ページ）へお進みください。

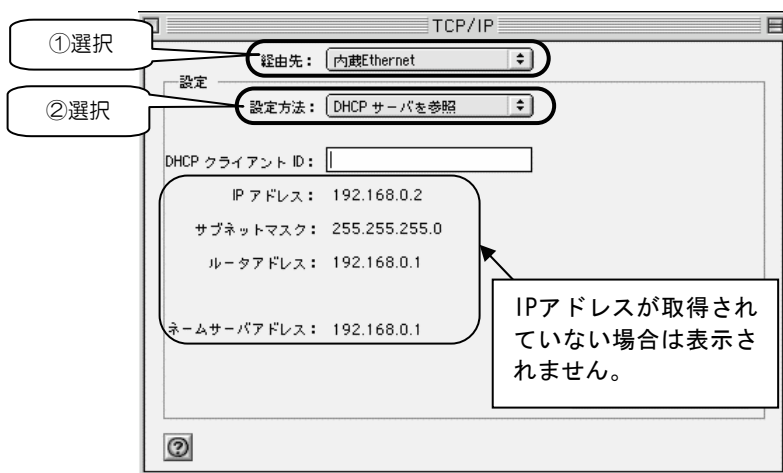
Mac OS(Classic)でIPアドレスを設定する

1 [アップルメニュー] → [コントロールパネル] 内の[TCP/IP] をクリックします。

2 ネットワーク環境設定をします。

①[経由先]で、ご使用のLANアダプタ（内蔵Ethernet、AirMacなど）を選びます。

②[設定方法]で[DHCPサーバを参照]を選びます。

③画面を閉じます。

【④IPアドレスを確認する】を読み飛ばして、
【⑤設定画面を表示させる】（48ページ）へお進みください。

④IPアドレスを確認する

設定用パソコンのIPアドレスが正しく取得できているかを確認します。

設定用パソコンのIPアドレスを確認します。

下記の該当するページをご覧ください。

MacOSの場合は、【③IPアドレスを設定する】内の手順*2*で確認できます。

～IPアドレスの調べ方～

▼お使いのOSによって設定方法が異なります

Windows XP/2000の場合 ……………………………………………下記

Windows Me/98 SEの場合……………………………………………46ページ

Windows XP/2000でIPアドレスを確認する

1 [コマンドプロンプト]を起動します。

・Windows XPの場合

［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］をクリックします。

・Windows 2000の場合

［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］をクリックします。

2 IPCONFIG -ALL と入力し、[ENTER]キーを押します。

```
C:¥>IPCONFIG -ALL
```

Windows XP/2000でIPアドレスを確認する(つづき)

3 それぞれの値が下記のようになっていることを確認します。

①	IP Address	192.168.0.xxx　（xxx は2～32）
②	Subnet Mask	255.255.255.0
③	Default Gateway	192.168.0.1
④	DHCP Server	192.168.0.1
⑤	DNS Servers	192.168.0.1

正常に［IP Address］が取得（表示）されていない場合は…

【困った時には】の137ページをご覧ください。

参考

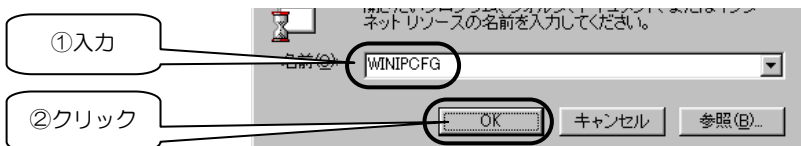
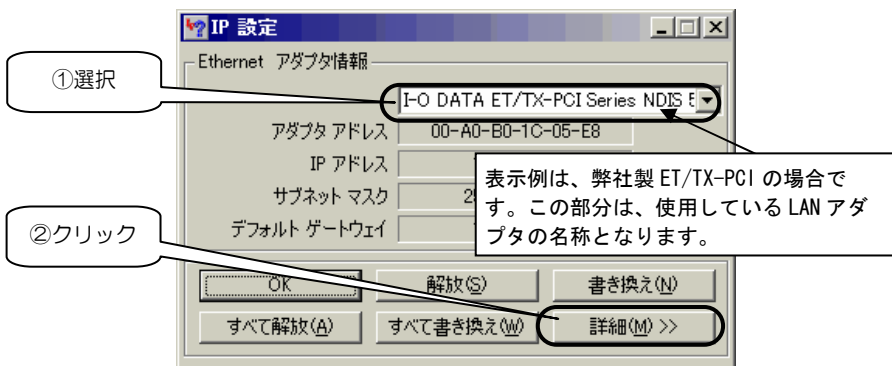
① [IP Address] …本製品から割り当てられたパソコンの IP アドレス値
② [Subnet Mask] …本製品から割り当てられたパソコンのサブネットマスク値
③ [Default Gateway] …本製品から割り当てられたパソコンのデフォルトゲートウェイ値（本製品の IP アドレスです。）
④ [DHCP Server] …本製品から割り当てられたパソコンの DHCP サーバ値（本製品の IP アドレスです。）
⑤ [DNS Servers] …本製品から割り当てられたパソコンの DNS サーバ値（本製品の IP アドレスです。プロバイダへ接続後に IP アドレスを取得した場合は、プロバイダの DNS アドレスが割り当てられます。）

4 EXIT　と入力後、[Enter]キーを押して画面を閉じます。

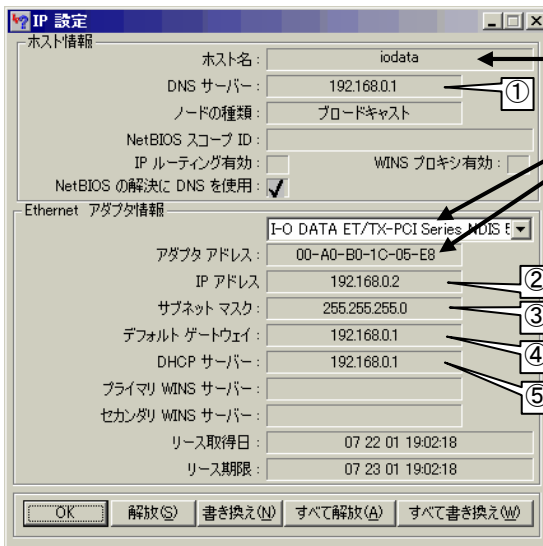
【⑤設定画面を表示させる】（48ページ）へお進みください。

Windows Me/98 SEでIPアドレスを確認する

1 ［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックします。

2 ［名前］に　WINIPCFG と入力し、［OK］ボタンをクリックします。

3 お使いのLANアダプタを選択し、［詳細］ボタンをクリックします。

4 それぞれの値が下記のようになっていることを確認します。

①	DNSサーバー	192.168.0.1
②	IPアドレス	192.168.0.xxx　（xxx は2～32）
③	サブネットマスク	255.255.255.0
④	デフォルトゲートウェイ	192.168.0.1
⑤	DHCPサーバー	192.168.0.1

Windows Me/98 SEでIPアドレスを確認する(つづき)

正常に IP アドレスが取得（表示）されていない場合は…

【困ったときには】の137ページをご参照ください。

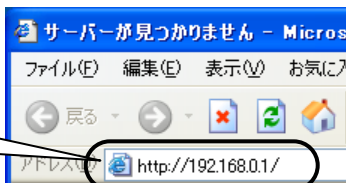
上記の①～⑤の値はすべて本製品から割り当てられた値（アドレス）です。
上記①、④、⑤は本製品の IP アドレスの値です。ただし、①の値は、プロバイダへ接続後に IP アドレスを取得した場合は、プロバイダの DNS アドレスが割り当てられます。

5 ［OK］ボタンをクリックし、画面を閉じます。

【⑤設定画面を表示させる】（48ページ）へお進みください。

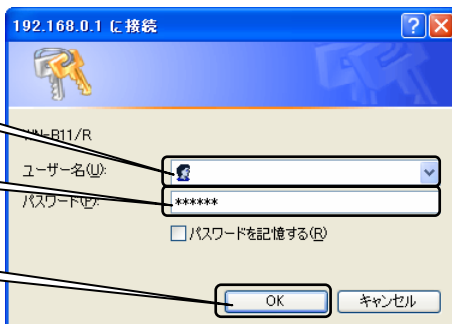
⑤設定画面を表示させる

本製品の設定画面が開けることを確認します。

1 Webブラウザを起動して以下を開きます。
「http://192.168.0.1/」

注意！

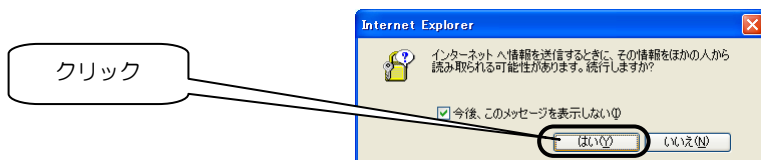
上記 IP アドレスは、本製品内部にある設定画面を呼び出す IP アドレスです。本製品がパソコンに LAN 接続されていれば（インターネットに接続されていなくても）呼び出すことができます。

2 以下の画面が表示されますので、下記のように入力して、[OK] ボタンをクリックします。

ユーザー名：　（入力なし）
パスワード：　IODATA

参考

パスワードは管理者以外が設定できないようにしたり、誤って設定したりすることを防ぐためのものです。出荷時のパスワードは、後で変更することをおすすめします。変更方法の詳細は、100 ページを参照してください。

【困った時には】の
130 ページを
ご参照ください。

3 以下の画面が表示された場合は、内容を確認後、［はい］ボタンをクリックします。

4 設定画面が表示されます。
この画面から各種設定を行います。

ここで、【①つなぐ前に確認する】(21ページ)で確認したIPアドレスが、192.168.0.xxx だった場合は、次ページの【参考】をご覧ください。

いったん画面を閉じて、【インターネットに接続する】（53ページ）へお進みください。

⑤設定画面を表示させる

【①つなぐ前に確認する】(21ページ)で確認したIPアドレスが、192.168.0.xxx だった場合

21ページで確認したIPアドレスが**192.168.0.xxx**だった場合、本製品のLAN側のIPアドレスを変更する必要があります。下記の方法で変更してください。

1 本製品LAN側のIPアドレスを変更します。

①[基本設定]の[LAN側設定]の[IPアドレス]に **192.168.254.1** と入力します。

②[設定]ボタンをクリックし、画面の指示にしたがいます。

2 パソコンを再起動します。

3 【④IPアドレスを確認する】(44ページ)へ戻り、IPアドレスが以下のように取得されていることを確認します。

IPアドレス : 192.168.254.xxx(xxxは2～32)

⇒IPアドレスが192.168.0.xxxのままの場合、IPアドレスを更新してみてください。IPアドレスの開放と更新方法は次ページの参考をご覧ください。

この後本書内で、192.168.0.1 と表記されているところは、192.168.254.1 と読み替えてください。

●IPアドレスの解放と更新方法

《Windows XP/2000/NT 4.0の場合》

①コマンドプロンプトを起動します。

・Windows XPの場合
［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→
［コマンドプロンプト］を順にクリックして起動します。

・Windows 2000の場合
［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→
［コマンドプロンプト］を順にクリックして起動します。

・Windows NT 4.0の場合
［スタート］→［プログラム］→［コマンドプロンプト］を順に
クリックして起動します。

②IPCONFIG -RELEASE　と入力し、[Enter]キーを押します。
→IPアドレスなどがすべて0.0.0.0になります。

③IPCONFIG -RENEW　と入力し、[Enter]キーを押します。
→IPアドレスを再取得します。

④IPCONFIG -ALL　と入力し、[Enter]キーを押します。
→IPアドレスをご確認ください。

《Windows Me/98/95の場合》

①WINIPCFGを起動します。
［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックして、
WINIPCFGと入力し、[OK]ボタンをクリックします。

②[すべて解放]ボタンをクリックし、[OK]ボタンをクリックします。

③パソコンを再起動します。

インターネットに接続する

本製品を使用して、インターネットに接続します。

①本製品をモデムに接続する

FTTH/ADSL/CATVモデムを本製品と接続します。

☞ 54ページ

▼

②設定画面を開く

本製品の設定を行うために、設定画面を開きます。

☞ 56ページ

▼

③回線に接続する

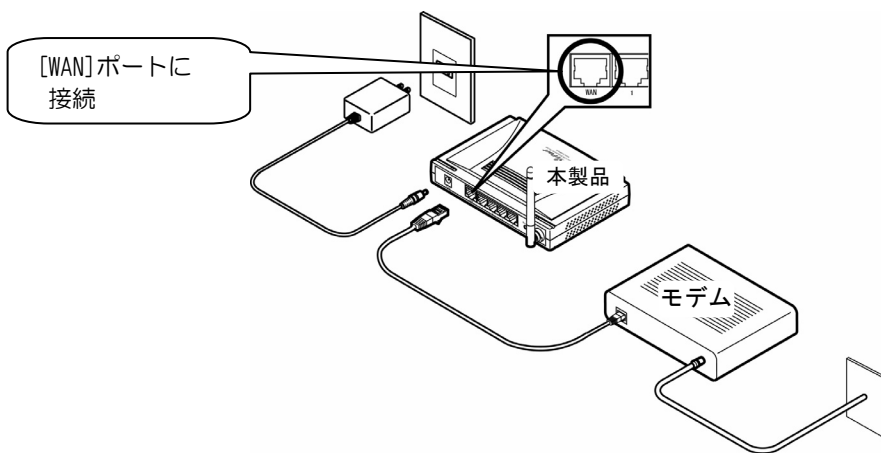
インターネットに接続するための設定を行います。プロバイダからの資料をご用意ください。

☞ 58ページ

①本製品をモデムに接続する

1 **パソコン、モデム、本製品の電源をすべて切ります。**

2 **モデムを本製品に接続します。**

本製品背面の［WAN］ポートにモデムのLANケーブルを接続します。

3 **モデム⇒本製品⇒パソコンの順に電源を入れます。**

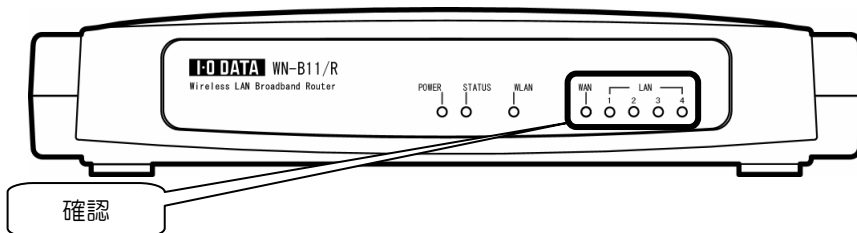
①モデムの電源を入れます。（モデムの取扱説明書を参照）

②本製品[DC 5V]にACアダプタを接続し、コンセントにつなぎます。

③パソコンの電源を入れます。

- LAN ケーブルを接続してから AC アダプタを接続してください。
  AC アダプタを接続した後に LAN ケーブルを接続すると、本製品を正しく使用できない場合があります。
- 必ず、モデムは［WAN］コネクタに接続してください。
  他のコネクタに接続すると、本製品を正しく使用できません。

4 しばらくして、本製品の［WAN］ランプとパソコンをつないだ［LAN］ランプ(1〜4)が点灯することを確認してください。

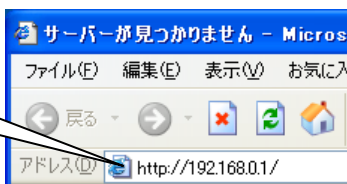
▼本製品前面

●LAN ケーブルや AC アダプタの接続を再度ご確認ください。
●【困った時には】の 130 ページをご覧ください。

【②設定画面を開く】（次ページ）へお進みください。

注意！

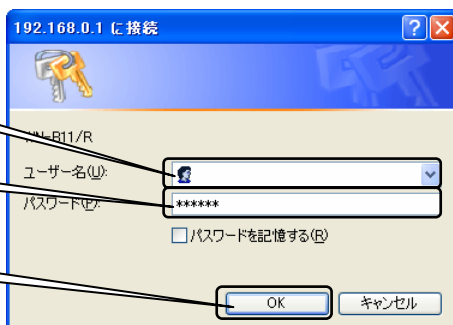
本製品を DHCP サーバとしてご利用になる場合は、必ず本製品の電源を入れた後で、パソコンの電源を入れてください。

②設定画面を開く

1 Webブラウザを起動して以下を開きます。
「http://192.168.0.1/」

注意！

50 ページの【参考】で本製品 LAN 側の IP アドレスを変更した場合は、「http://192.168.254.1/」と入力してください。

2 以下の画面が表示されますので、下記のように入力して、[OK] ボタンをクリックします。

ユーザー名：　（入力なし）
パスワード：　IODATA

【困ったときには】の130 ページをご覧ください。

3 以下の画面が表示された場合は、内容を確認後、［はい］ボタンをクリックします。

4 設定画面が表示されます。

【③回線に接続する】（次ページ）へお進みください。

③回線に接続する

接続する回線により手順が異なりますので、インターネット接続を行うための接続回線を選択し、必要なページのみをご覧ください。

●お使いの接続回線はどのタイプ?

下記の3種類の接続のうち、あてはまるタイプにチェックを付けてください。
タイプにより設定方法が異なります。

□	Aタイプ	**「PPPoE認証接続」の場合**‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ **60ページ** プロバイダ例）フレッツシリーズ(NTT東日本、西日本)、 一般的なFTTH(光ファイバ)サービスなど

条件１ ⇒PPPoE認証で接続する
条件２ ⇒ブリッジタイプのモデムを使用している

□	Bタイプ	**「IPアドレス自動取得接続」の場合**‥‥ **63ページ** プロバイダ例）一般的なCATV、アッカネットワークス、eAccess、 Yahoo!BBなど

条件１ ⇒PPPoE認証で接続しない、または、PPPoE認証で接続するがルータタイプのモデムを使用している
条件２ ⇒プロバイダから指示されたインターネット用(WAN側)のIPアドレスが、自動取得である

□	Cタイプ	**「IPアドレス固定設定接続」の場合**‥‥ **65ページ** プロバイダ例）一部のCATVなど

条件 ⇒プロバイダから指示されたインターネット用(WAN側)のIPアドレスが、固定である

●モデムの種類について

・ブリッジタイプ … 同時に接続可能なパソコンの台数は1台です。

お使いのパソコンにグローバルIPアドレスを自動的に割り当てます。

（LAN接続タイプとUSBタイプがありますが、USBタイプの場合は本製品を利用できません。）

・ルータタイプ … 複数のパソコンを接続することができます。

モデムにグローバルIPアドレスを1つ自動的に割り当てます。

パソコン側にはモデムのDHCP機能により、プライベートIPアドレスを割り振ることが可能です。

Aタイプ：「PPPoE認証接続」の場合

1 WAN側設定の[WAN側接続設定]で、［PPPoE認証接続］を選択します。

参考

WAN 側とは、ADSL/FTTH/CATV のプロバイダ側のことです。

2 プロバイダから案内されている資料をもとに、設定をしてください。

特に指定がない個所は空欄（または初期値）のまま変更する必要はありません。

ユーザー名	プロバイダから指定されたアカウント名を入力します。（NTT フレッツシリーズの場合は、@ から後ろもすべて入力します。）
パスワード	プロバイダから指定された接続パスワードを入力します。セキュリティのため、入力文字は“*”で表示されます。（すでに入力済みの●を削除して入力してください。）
サービス名（オプション）	プロバイダから指定されたサービス名を入力します。（指定がない場合は入力する必要はありません。）

Aタイプ：「PPPoE認証接続」の場合（つづき）

再接続設定	PPPoEセッションの再接続に関する設定を行います。 ・オンデマンド接続 インターネット利用時、自動的にプロバイダと接続する場合に設定します。 [無通信タイムアウト]では、自動切断を行う時間(1～9999)を設定します。ブラウザやメールソフトが通信していない場合、この項目で設定した時間を超えると自動的に切断します。(初期値：5分) ※常時接続の場合は、[自動再接続]を選択してください。 ・自動再接続(キープアライブ) PPPoEセッションが切断しても、自動的に再接続を行います。 [再接続時間]では、再接続を行うインターバル時間(20～180)を設定します。(初期値：30 秒)

3 設定したら、画面下の［設定］ボタンをクリックします。

4 [本体管理設定]の[ステータス情報]をクリックします。

通信できていることを確認します。

Aタイプ：「PPPoE認証接続」の場合（つづき）

●[PPPoEステータス]に[接続中]と表示されている場合

接続が完了し、インターネットに接続できる状態です。

これで設定は完了です。インターネットをお楽しみください。

●[PPPoEステータス]に[切断中]と表示されている場合

[接続]ボタンをクリックしてみてください。

それでも[切断中]と表示されている場合は、プロバイダとの接続が切れている、もしくは正常に接続できていない状態です。設定が正しくできていない可能性があります。再度［ユーザ名］や［パスワード］を確認してください。

【困ったときには】の
140 ページを
ご参照ください。

Bタイプ：「IPアドレス自動取得接続」の場合

1 WAN側設定の[WAN側接続設定]で、［IPアドレス自動取得接続］を選択します。

参考

WAN 側とは、ADSL/FTTH/CATV のプロバイダ側のことです。

2 設定したら、画面下の［設定］ボタンをクリックします。

3 [本体管理設定]の[ステータス情報]をクリックします。

通信できていることを確認します。

Bタイプ：「IPアドレス自動取得接続」の場合（つづき）

●[WANポート]の[IPアドレス]に[0.0.0.0]以外が表示されている場合

接続が完了し、インターネットに接続できる状態です。

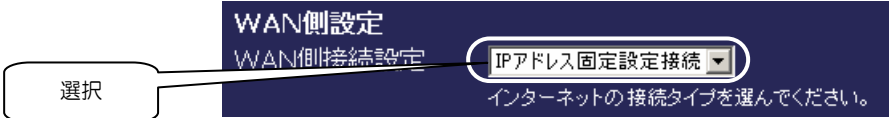
これで設定は完了です。インターネットをお楽しみください。

●[WANポート]の[IPアドレス]に[0.0.0.0]と表示されている場合

[DHCP解放]ボタンをクリック後、[DHCP取得]ボタンをクリックしてみてください。それでも[0.0.0.0]と表示される場合は、プロバイダとの接続が切れている、もしくは正常に接続できていない状態です。
LANケーブルの接続やモデムの電源が入っていることをご確認ください。

【困ったときには】の
141 ページを
ご参照ください。

Cタイプ：「IPアドレス固定設定接続」の場合

1 WAN側設定の[WAN側接続設定]で、［IPアドレス固定設定接続］を選択します。

参考

WAN 側とは、ADSL/FTTH/CATV のプロバイダ側のことです。

2 プロバイダから案内されている資料をもとに、設定をしてください。

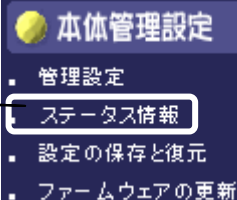
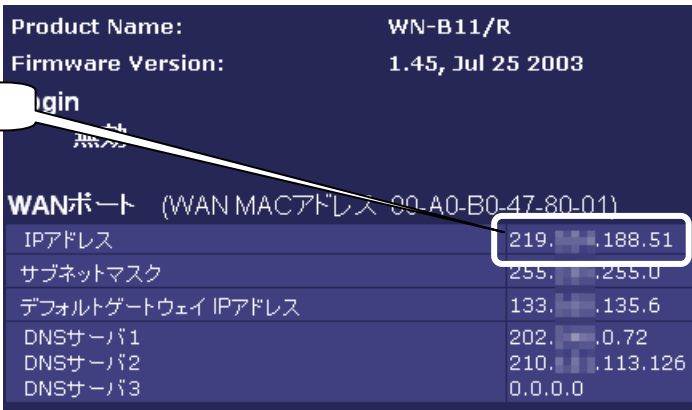
特に指定がない個所は空欄（または初期値）のまま変更する必要はありません。

WAN側IP アドレス	0	0	0	0
サブネットマスク	255	255	255	0
デフォルトゲートウェイアドレス	0	0	0	0
DNSサーバ1:	0	0	0	0
DNSサーバ2:	0	0	0	0
DNSサーバ3:	0	0	0	0

項目	説明
WAN 側 IP アドレス	プロバイダから指定された IP アドレスを入力します。
サブネットマスク	プロバイダから指定されたサブネットマスクを入力します。
デフォルトゲートウェイアドレス	プロバイダから指定されたデフォルトゲートウェイアドレスを入力します。
DNS サーバ 1～3	プロバイダから指定されている場合は、DNS（ネーム）サーバアドレスを入力します。

3 設定したら、画面下の［設定］ボタンをクリックします。

クリック

設　定　キャンセル

Cタイプ：「IPアドレス固定設定接続」の場合（つづき）

4 [本体管理設定]の[ステータス情報]をクリックします。

通信できていることを確認します。

●[WANポート]の[IPアドレス]に正しいIPアドレスが表示されている場合

設定は正しく完了しています。インターネットに接続できる状態です。

これで設定は完了です。インターネットをお楽しみください。

●[WANポート]の[IPアドレス]に正しいIPアドレスが表示されていない場合

正しく設定されていません。再度IPアドレスの設定を確認してください。

【困ったときには】の141 ページをご参照ください。

他の設定をする

本製品の設定画面について説明します。必要な場合のみご覧ください。

基本設定

本製品を使用してインターネットに接続するための、基本的な設定ができます。

●WAN側設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68ページ
●LAN側設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69ページ
●無線LAN設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70ページ
●暗号化(WEP)の設定をする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73ページ

詳細設定

アクセス制限や仮想サーバなどの設定ができます。

●アクセス制限・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78ページ
●仮想サーバ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82ページ
●特殊アプリ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86ページ
●DMZ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87ページ
●ダイナミックDNS・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 88ページ

高度なネットワーク設定

本製品の高度な設定ができます。（通常は設定する必要はありません。）

●DHCPサーバ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 90ページ
●無線詳細設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 92ページ
●スタティックルート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 96ページ
●ダイナミックルート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 99ページ

本体管理設定

本製品の現在の状態や設定ファイルなどに関する設定ができます。

●管理設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 100ページ
●ステータス情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 102ページ
●設定の保存と復元・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104ページ
●ファームウェアの更新・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 105ページ

基本設定

本製品を使用してインターネットに接続するための、基本的な設定ができます。

WAN側設定

本製品を使用してインターネットに接続するための設定ができます。
[WAN側接続設定]の選択により、設定できる内容が異なります。
詳しくは、【インターネットに接続する】の【③回線に接続する】(58ページ)をご覧ください。

WAN側設定

WAN側接続設定　IPアドレス自動取得接続

インターネットの接続タイプを選んでください。

LAN側設定

本製品LAN側のIPアドレスなどが設定できます。

項目	説明
ホスト名	必要な場合、本製品のホスト名を入力します。
IPアドレス	本製品LAN側のIPアドレスを入力します。 初期値：192.168.0.1
サブネットマスク	本製品LAN側のサブネットマスクを入力します。 初期値：255.255.255.0
ドメイン名	必要な場合、本製品のドメイン名を入力します。

ボタン	説明
設定	入力内容が反映されます。
クリア	入力した内容を現在の情報に戻します。

※DHCPサーバの設定は、90ページを参照してください。

無線LAN設定

SSID、チャンネル、WEPの設定ができます。

項目	説明
機能	本製品の無線LANアクセスポイント機能の有効/無効を設定します。初期値：有効
SSID	SSIDを設定します。半角英数字で32文字まで入力できます。（大文字、小文字の区別もあります。） 複数のアクセスポイントがあり、自動的にアクセスポイント接続を切り替えるローミング機能を使用する場合は、すべてのアクセスポイントのSSIDを統一します。 グループ毎にアクセスポイントを分ける場合などは、アクセスポイント毎に別のSSIDを設定してください。設定後、本製品と通信する無線LAN製品は、すべてその値を設定してください。 初期値：default
チャンネル	通信チャンネル（使用する電波の周波数帯域を分割して、それぞれの帯域に番号を割り当てたもの）の設定を行います。 本製品以外にアクセスポイントやアクセスポイント内蔵機器がない場合は、初期値のまま変更する必要はありません。 本製品の近くに他のアクセスポイントやアクセスポイント内蔵機器がある場合は、それぞれのネットワークで別の通信チャネルの値を設定してください。（2.4GHz帯(IEEE802.11g/b)を使用する場合は、電波の干渉を防ぐため５チャンネル間隔を空けることをおすすめします。詳しくは次ページの参考をご覧ください。）初期値：6
WEP	暗号化設定をします。詳しくは【暗号化（WEP）の設定をする】(73ページ)をご覧ください。 初期値：無効

無線LAN設定（つづき）

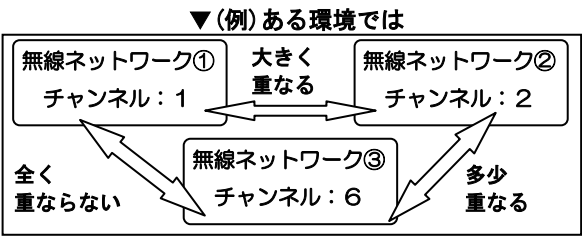
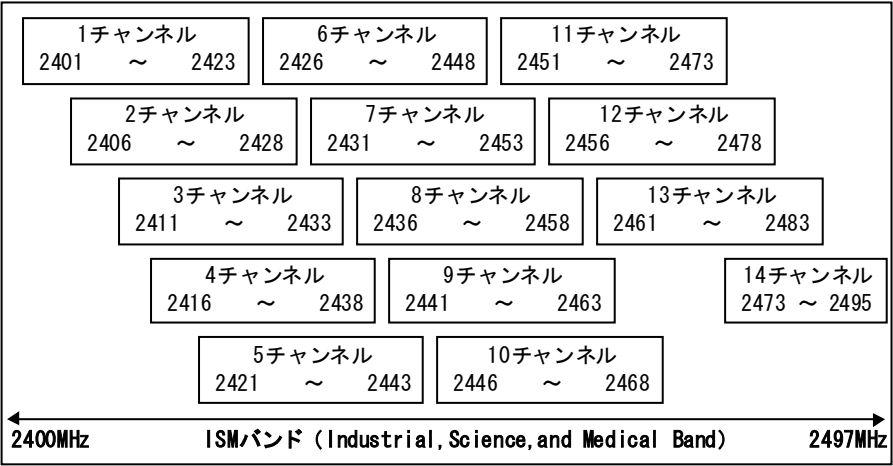
ボタン	説明
WEP設定	WEP設定画面が開きます。（73ページ参照）
設定	入力内容が反映されます。
クリア	入力した内容を現在の情報に戻します。

・無線LANアダプタから本製品の無線設定を変更すると、本製品と無線LANアダプタの通信が途切れることがあります。その場合は無線LANアダプタの無線設定（SSID、WEPなど）を本製品の設定と合わせてください。
有線LANアダプタがある場合は、有線LAN接続したパソコンから設定することをおすすめします。
・初期設定では無線LAN製品（弊社製「WN-B11/CBL」など）の［SSID］の設定を［ANY］とした場合、本製品で設定したSSIDの値にかかわらず、無線でアクセスできるようになります。不正アクセスを防ぐためにも、通信の暗号化や通信できるパソコンを制限することをおすすめします。
・本製品にアクセスする無線LANは、すべて同じSSIDにしてください。
・SSIDは、ご購入時[default]に設定されていますが、セキュリティのため、変更することをおすすめします。
・SSIDやチャンネルの値が他の無線LANグループと重なると、他の無線LANグループに通信内容が流れたり、他の無線LANグループの通信内容が見えてしまったりします。そのために起こったトラブルに対しては弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

●2.4GHz帯（IEEE802.11g/b）の無線で選択するチャンネル
2.4GHz帯の無線では1～13 chまで選択できます。（一部製品では1～14 chまで）
複数の無線ネットワークを使用する場合、隣り合ったチャンネルは、電波の帯域が重なるため通信にロスを生じます。
電波到達範囲内で複数の無線ネットワークが存在する場合は、次ページの表をご覧になり、帯域が重ならないように設定することをおすすめします。
例）無線ネットワークが3つある場合は、それぞれ1,6,11チャンネルに設定

無線LAN設定（つづき）

▼無線LANチャンネル一覧（2.4GHz帯の場合）
（例：１チャンネルの場合、2401～2423MHzの帯域を使用します。）

▼(例)ある環境では

暗号化(WEP)の設定をする

通信時に暗号化していない場合、電波の届く範囲であれば、通信内容を傍受される危険があります。本製品では、無線LANの暗号化の標準であるWEP（Wired Equivalent Privacy）での暗号化で、傍受の危険を回避することができます。ここでは、本製品の通信を暗号化する方法を説明します。

項目	説明
キーの長さ	64ビットより128ビットの方がより高いセキュリティレベルを確保できますが速度は低下する場合があります。 **[64ビット]**：送受信するデータを64ビットで暗号化します。 **[128ビット]**：送受信するデータを128ビットで暗号化します。
パスフレーズ	ASCII文字列を入力し、生成ボタンによりランダムでWEPキーを生成します。（通常は使用しません。）
キー１～４	16進数　：0～9またはA～Fの文字列を入力します。 （64bit：10桁、128bit：26桁） 無線LANアダプタなど通信相手側と同じ暗号キーを入力する必要があります。暗号化の設定方法は次ページ以降を参照してください。 ※ASCII文字の入力には対応しておりません。

※ServicePack１にアップグレードしていないWindows XPでは、[キーの長さ]と[キーのインデックス]が、弊社Web設定の表記と異なります。それぞれ以下のように読み替えてください。

40ビット=64ビット、104ビット＝128ビット
キー0=キー1、キー1=キー2、キー2=キー3、キー3=キー4

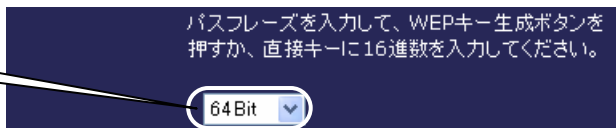
暗号化(WEP)の設定をする（つづき）

●暗号化(WEP)の設定例

有線 LAN 接続したパソコンから本製品を設定することをおすすめします。

無線 LAN 接続のパソコンで本製品を設定している場合、暗号キーを変更すると、本製品と通信できなくなります。
その場合、無線 LAN 接続の設定用パソコンの暗号キーを、変更した内容に合わせると接続できます。ただし、変更した内容を忘れた場合など、本製品に接続できなくなった場合は、有線 LAN から接続しなおすか、本製品を出荷時状態に戻す必要がありますので、設定する暗号キーはメモしてください。

1 [WEP]で[有効]にチェックをつけ、［WEP設定］ボタンをクリックします。

2 [キーの長さ]を選びます。
暗号キーの長さを[64ビット]、[128ビット]から選びます。

・ご使用の無線 LAN 製品によっては、[128bit ビット］に対応していない製品（弊社製 WN-B11/USB、WN-B11/PRS など）があります。
・ご利用のネットワークの WEP 認証方式(Open System、Shared Key)をご確認ください。その上で、本製品の設定（【無線詳細設定】）でご利用になる認証方式を設定してください。

暗号化(WEP)の設定をする（つづき）

3 **下記の表にしたがって、［キー１］に暗号キーを入力します。**
[16 進数]で［64(40)ビット］キーの設定例（10 桁の 16 進数）
　　例）0123456789
[16 進数]で［128(104)ビット］キーの設定例（26 桁の 16 進数）
　　例）01234567890123456789012345

入力形式	16進数　：0～9またはA～Fの文字列
キーの長さ	16進数 64bit　10文字 128bit　26文字

▼64ビットの場合　　▼128ビットの場合

すでに無線LANの暗号キーをお使いで、そのキーに合わせる場合は、そのキーを入力してください。
はじめて暗号キーを設定する場合などは、キーを入力後、キーの種類とキー自体をメモしてください。このキーは他の無線LANアダプタ側に設定するために必要です。
※通常、キー２～４は変更/入力の必要はありません。

▼入力したキーをメモしてください。

キー１	

暗号化(WEP)の設定をする（つづき）

4　画面下の［設定］ボタンで設定を保存します。

5　無線LANアダプタのWEP設定を本製品のWEP設定にあわせます。

無線LANアダプタの暗号化設定は、各無線LANアダプタによって異なります。それぞれの取扱説明書をご覧ください。

これで暗号化設定はできました。

AirMac、AirMac Extreme では、暗号キーの入力方法が特殊です。入力方法については、【AirMac、AirMacExtreme での暗号化について】（127 ページ）をご覧ください。

暗号化(WEP)の設定をする（つづき）

●暗号キー入力方式の異なる他社製品との暗号化について

本製品を含む WN シリーズでは、暗号キーとして 16 進コードでの暗号キー入力方式を採用していますが、他社製品には、５文字の英数字・記号で暗号キーを指定する方式や、文字列から 16 進コードへ変換する際、本製品と変換方式の異なる製品があります。
これらの製品と暗号化を行う場合は、最初に英数字・記号の５文字で暗号キーに使用する文字列を決め、16 進コードを入力できない他社製品はこの５文字の文字列を入力します。
WN シリーズや 16 進コードを入力可能な他社製品にはこの５文字の文字列を下記対応表に基づき、16 進コードに変換したうえで入力することで通信可能となります。
各文字と 16 進コードの対応については下記の表を参照してください。
〈例〉 文字で ″WNG54″ と設定している場合、
16進コードでは [57 4e 47 35 34] となります。

<table>
<tr><th>文字</th><th>16進</th><th>文字</th><th>16進</th><th>文字</th><th>16進</th><th>文字</th><th>16進</th><th>文字</th><th>16進</th><th>文字</th><th>16進</th><th>文字</th><th>16進</th></tr>
<tr><td>!</td><td>21</td><td>0</td><td>30</td><td>?</td><td>3f</td><td>N</td><td>4e</td><td>]</td><td>5d</td><td>l</td><td>6c</td><td>{</td><td>7b</td></tr>
<tr><td>″</td><td>22</td><td>1</td><td>31</td><td>@</td><td>40</td><td>O</td><td>4f</td><td>^</td><td>5e</td><td>m</td><td>6d</td><td>|</td><td>7c</td></tr>
<tr><td>#</td><td>23</td><td>2</td><td>32</td><td>A</td><td>41</td><td>P</td><td>50</td><td>_</td><td>5f</td><td>n</td><td>6e</td><td>}</td><td>7d</td></tr>
<tr><td>$</td><td>24</td><td>3</td><td>33</td><td>B</td><td>42</td><td>Q</td><td>51</td><td>`</td><td>60</td><td>o</td><td>6f</td><td>~</td><td>7e</td></tr>
<tr><td>%</td><td>25</td><td>4</td><td>34</td><td>C</td><td>43</td><td>R</td><td>52</td><td>a</td><td>61</td><td>p</td><td>70</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>&</td><td>26</td><td>5</td><td>35</td><td>D</td><td>44</td><td>S</td><td>53</td><td>b</td><td>62</td><td>q</td><td>71</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>'</td><td>27</td><td>6</td><td>36</td><td>E</td><td>45</td><td>T</td><td>54</td><td>c</td><td>63</td><td>r</td><td>72</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>(</td><td>28</td><td>7</td><td>37</td><td>F</td><td>46</td><td>U</td><td>55</td><td>d</td><td>64</td><td>s</td><td>73</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>)</td><td>29</td><td>8</td><td>38</td><td>G</td><td>47</td><td>V</td><td>56</td><td>e</td><td>65</td><td>t</td><td>74</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>*</td><td>2a</td><td>9</td><td>39</td><td>H</td><td>48</td><td>W</td><td>57</td><td>f</td><td>66</td><td>u</td><td>75</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>+</td><td>2b</td><td>:</td><td>3a</td><td>I</td><td>49</td><td>X</td><td>58</td><td>g</td><td>67</td><td>v</td><td>76</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>,</td><td>2c</td><td>;</td><td>3b</td><td>J</td><td>4a</td><td>Y</td><td>59</td><td>h</td><td>68</td><td>w</td><td>77</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>-</td><td>2d</td><td><</td><td>3c</td><td>K</td><td>4b</td><td>Z</td><td>5a</td><td>i</td><td>69</td><td>x</td><td>78</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>.</td><td>2e</td><td>=</td><td>3d</td><td>L</td><td>4c</td><td>[</td><td>5b</td><td>j</td><td>6a</td><td>y</td><td>79</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>/</td><td>2f</td><td>></td><td>3e</td><td>M</td><td>4d</td><td>¥</td><td>5c</td><td>k</td><td>6b</td><td>z</td><td>7a</td><td></td><td></td></tr>
</table>

詳細設定

アクセス制限や仮想サーバの設定ができます。

アクセス制限

［アクセス制限］では、LAN側からWAN側へのアクセスに関する設定を行います。

●IPポートフィルタ

LAN内から外部にアクセスできるサービスをポートやIPアドレスごとに制限できます。5グループまで、IPアドレスの範囲とポートの範囲といった指定で登録できます。

IPポートフィルタ

プロトコル	IP アドレス	ポート
TCP/UDP	192.168.0. 0 ～ 0	0 ～ 0
TCP/UDP	192.168.0. 0 ～ 0	0 ～ 0
TCP/UDP	192.168.0. 0 ～ 0	0 ～ 0
TCP/UDP	192.168.0. 0 ～ 0	0 ～ 0
TCP/UDP	192.168.0. 0 ～ 0	0 ～ 0

設定　クリア

項目	説明
プロトコル	接続を拒否するプロトコルの種類（TCP・UDP・TCP/UDP）を選択します。
IPアドレス	接続を拒否するIPアドレスの範囲を入力します。 左の枠に最初のIPアドレス、右の枠に最後のIPアドレスを入力します。１つのIPアドレスの場合は両方の枠に同じ値を入力します。
ポート番号	接続を拒否するポート番号の範囲を入力します。 左の枠に最初のポート、右の枠に最後のポートを入力します。 １つのポートの場合は両方の枠に同じポートを入力します。

※設定済項目を削除する際は、IPアドレス・ポート番号ともに0～0を入力します。

ボタン	説明
設定	入力内容が反映されます。
クリア	入力した内容を現在の情報に戻します。

アクセス制限（つづき）

●URLフィルタ

URL（ドメイン名）によってインターネットへの接続を許可/拒否することができます。（20エントリ）

省略

サイト 20:
削 除
設 定
クリア
URLログの表示

項目	説明
URLフィルタ	有効：URLフィルタ機能を有効にします。 無効：URLフィルタ機能を無効にします。
処理	許可：[URLフィルタ設定一覧]に登録したURLへのみアクセスできます。 拒否：[URLフィルタ設定一覧]に登録したURLへのアクセスが禁止されます。
URLフィルタ設定一覧	入力した文字列を含むURLがフィルタの対象となります。 ※入力可能な文字は、半角の英数字・記号 63文字です。 例）www.xxxx.ne.jp や xxxx.ne.jp など

ボタン	説明
設定	入力内容が反映されます。
クリア	入力した内容を現在の情報に戻します。
URLログの表示	アクセス制限のログ情報を確認できます。次ページをご覧ください。
削除	各項目に登録されたURLを削除します。

アクセス制限（つづき）

●URLログウィンドウ

URL フィルタログ　　更新

クライアントIP アドレス	ステータス	接続先URL
192.168.0.2	Pass	pa.yahoo.co.jp
192.168.0.2	Pass	img.yahoo.co.jp
192.168.0.2	Pass	www.yahoo.co.jp
192.168.0.2	Blocked	www.iodata.co.jp
192.168.0.2	Pass	www-3.ibm.com
192.168.0.2	Pass	plaza.iodata.jp
192.168.0.2	Blocked	www.iodata.co.jp
192.168.0.2	Blocked	www.iodata.jp

項目	説明
クライアントIPアドレス	アクセスしたパソコン(クライアント)のIPアドレスを表示します。
ステータス	Pass：閲覧URLへのアクセスを許可されたとき。 Blocked：閲覧URLへのアクセスを拒否されたとき。
接続先URL	接続先のURLを表示します。

ボタン	説明
更新	ログ内容を更新します。

アクセス制限（つづき）

●MACフィルタ

登録されたMACアドレスを持つパソコンからのインターネットへの接続を、拒否することができます。無線機器のMACアドレス制限については、92ページの【無線詳細設定】を、ご確認ください。

省略

項目	説明
MACフィルタ表示範囲	50エントリのうち、10エントリずつ選択し、表示できます。
MACアドレス	インターネットへの接続をフィルタするパソコン（LANアダプタ）のMACアドレスを半角英数文字12桁で入力します。 ※設定済項目を削除する際は、0を入力します。 例）00A0B0000001

ボタン	説明
設定	入力内容が反映されます。
クリア	入力した内容を現在の情報に戻します。

仮想サーバ

LAN内でWebサーバなどを運用する場合に設定します。[サーバIPアドレス]は固定で使用してください。(DHCPで割り当てる範囲外のIPアドレスとしてください。)

【仮想サーバ】

項目	説明
設定項目	仮想サーバのエントリを表示します。(10エントリ)
プロトコル	仮想サーバで使用するポート番号の範囲と、プロトコルの種類(TCP・UDP・TCP/UDP)を選択します。１つのポートの場合は両方の枠に同じポートを入力します。
ホストIPアドレス	公開するサーバのLAN側IPアドレスを指定します。 ※設定済項目を削除する際は、0を入力します。

【PASV FTP仮想サーバ】(通常のFTPサーバの場合、上記仮想サーバで設定します。)

項目	説明
有効・無効	PASVモードのFTPサーバを公開するときに使用します。 有効：PASV FTP仮想サーバを有効にします。 無効：PASV FTP仮想サーバを無効にします。
FTPポート番号	PASV FTP仮想サーバで使用するポート番号を選択します。
サーバIPアドレス	公開するPASV FTPサーバのLAN側IPアドレスを指定します。 ※設定済項目を削除する際は、0を入力します。

仮想サーバ（つづき）

ボタン	説明
UPnPフォワード設定	UPnPの動作について確認できます。（次ページ参照）
設定	入力内容が反映されます。
クリア	入力した内容を現在の情報に戻します。

《ポート番号を指定する場合の設定例》

●準備

ご使用になるアプリケーションで指定されている｢ポート番号｣｢プロトコル｣をあらかじめ確認しておきます。確認方法については各アプリケーションの取扱説明書をご覧ください。

●設定手順

※複数のポート番号を指定する場合は、ポート番号ごとまたは、範囲で設定してください。

1 ポート番号を範囲で入力します。（単一指定は、同一の番号を指定してください。）

2 [プロトコル]で指定されたプロトコル（TCP・UDP・TCP/UDP）を選択します。

3 [ホストIPアドレス]にアプリケーションを使用するパソコンのIPアドレスを入力します。

4 [設定]ボタンをクリックします。

（ポート番号：TCP554番の接続を、LAN内の192.168.0.32に転送する例）

これで設定は完了です。

仮想サーバ（つづき）

●UPnPフォワード設定（Windows XPのみ）

UPnPによる動的なフォワーディング機能を確認(設定)できます。
Windows XPで設定した項目を確認することができます。（設定も可能）
Windows MessengerなどのUPｎP対応ソフトウェアから自動設定されますので、通常設定は必要ありません。

UPnP
項目　有効　無効

UPnPフォワード設定

アプリ名	外部ポート	プロトコル TCP	プロトコル UDP	内部ポート	IPアドレス	有効
FTP	21			21	192.168.0. 0	
Telnet	23			23	192.168.0. 0	
SMTP	25			25	192.168.0. 0	
DNS	53			53	192.168.0. 0	
TFTP	69			69	192.168.0. 0	
finger	79			79	192.168.0. 0	
HTTP	80			80	192.168.0. 0	
POP3	110			110	192.168.0. 0	
NNTP	119			119	192.168.0. 0	
SNMP	161			161	192.168.0. 0	
	0			0	192.168.0. 0	
	0			0	192.168.0. 0	
	0			0	192.168.0. 0	
	0			0	192.168.0. 0	
	0			0	192.168.0. 0	

仮想サーバ設定へ戻る　設 定　クリア

項目	説明
項目	ルータのUPnP機能の有効/無効を設定します。（【管理設定】の【UPnP】とも連動します。） 有効：UPnP機能を有効にします。 無効：UPnP機能を無効にします。
アプリ名	リストに登録する際の任意の名前を入力します。 （半角英数文字7文字まで） ※UPnPで定義されている10項目についてはあらかじめセットされています。
プロトコル	使用するプロトコルを選択します。
外部ポート	サーバなどを公開した際、WAN側からどのポート番号でアクセスされた場合の仮想サーバを有効にするかを指定します。通常は内部ポートと同じです。
内部ポート	公開するサーバで使用するLAN側のポート番号を指定します。

仮想サーバ（つづき）

項目	説明
IPアドレス	公開するサーバのLAN側IPアドレスを指定します。
有効	有効とする項目にチェックします。

ボタン	説明
仮想サーバ設定へ戻る	仮想サーバ設定の画面に戻ります。
設定	入力内容が反映されます。
クリア	入力した内容を現在の情報に戻します。

特殊アプリ

内側からのトリガーポート要求に応じて、外部ポートを要求元に対して開けることができます。
特定のアプリケーションで、NATなどのファイアウォール下で通信機能が動作できない場合に利用します。詳しい設定については、各アプリケーションの取扱説明書をご覧ください。

項目	説明
アプリ名	リストに登録する際の任意の名前を入力します。 （半角英数文字12文字まで）
トリガポート番号	アプリケーション側で必要なポートを設定します。 左の枠に最初のポート、右の枠に最後のポートを入力します。 １つのポートの場合は両方の枠に同じポートを入力します。
インカミング ポート番号	アプリケーションが使用するポートの番号を設定します。 アプリケーションからのトリガーポート番号の要求があるとここで設定したポートがWAN側に開放されます。 １つのポートの場合は両方の枠に同じポートを入力します。

※設定済項目を削除する際は、トリガーポート番号に0～0を入力します。

ボタン	説明
設定	入力内容が反映されます。
クリア	入力した内容を現在の情報に戻します。

DMZ

インターネット側（WAN側）から本製品に接続されたLAN側のパソコンにアクセスするための機能です。受け取った全パケットをここで設定したIPアドレスに転送しますので、セキュリティ上必要な時以外は、使用しないでください。
（IPアドレスは固定で使用してください。）

項目	説明
DMZホスト IPアドレス	DMZホスト機能を有効に設定するパソコンのIPアドレスを入力します。
マルチDMZホスト1～5	プロバイダから複数の固定IPアドレスを取得していて、「IPアドレス固定設定接続」の場合にのみ使用できます。 WAN側IPアドレスとLAN側IPアドレスにそれぞれ対応させるIPアドレスを入力します。

ボタン	説明
設定	入力内容が反映されます。
クリア	入力した内容を現在の情報に戻します。

DMZホストを有効にした場合、DMZホストに指定されたパソコン以外のパソコンからもインターネットへの接続はできますが、仮想サーバ機能との併用はできません。（仮想サーバが優先されます。）

ダイナミックDNS

ダイナミックDNSとは、仮想サーバなどを公開する場合に、IPアドレスを指定せずにドメイン名で指定できるようにする機能です。接続するたびにIPアドレスが変わってしまう場合でも、ダイナミックDNSを利用すれば、常にドメイン名でアクセスできます。下記の手順にしたがって設定してください。

※ダイナミックDNSサービスに関しては、弊社ダイナミックDNSサービスiobb.netをご利用いただく場合のみサポート対象とさせていただきます。その他のダイナミックDNSサービスには対応しておりません。

1 ダイナミックDNSサービスのユーザー登録を行います。

弊社ダイナミックDNSサービス⇒ **http://www.iobb.net/**

ダイナミックDNSサービス
iobb.net

2 本製品の設定画面で、[ダイナミックDNS]を開きます。

3 下記の各設定をします。

ダイナミックDNS（つづき）

項目	説明
項目	[有効]：ダイナミックDNS機能が有効になります。 [無効]：ダイナミックDNS機能が無効になります。
シリアルナンバー	本製品のシリアルナンバー(iobb.net登録に使用したもの)を入力します。(大文字英数字12桁) ユーザーIDに該当します。
パスワード	iobb.netに登録したパスワードを入力します。
ホスト名	iobb.netに登録したホスト名(iobb.netの前の部分の文字列)を入力します。

4 [設定]ボタンをクリックして、画面の指示にしたがってください。

[アドレスの更新]ボタンをクリックすると、現在のWAN側IPアドレスが、iobb.netサーバに通知、更新されます。

これで設定できました。

高度なネットワーク設定

本製品の高度な設定ができます。（通常は設定する必要はありません。）

DHCPサーバ

本製品が持つDHCPサーバの設定ができます。

項目	説明
項目	DHCPサーバ機能の有効/無効を設定します。 有効：本製品のLANポート([1]～[4])に接続したパソコンのIPアドレスを自動的に割り当てます。 無効：DHCP機能を使用しません。
開始IPアドレス	DHCPサーバ機能を有効にした場合に、割り当てるIPアドレス範囲の最初のIPアドレスを指定します。
割り当てアドレス数	DHCPサーバ機能を有効にした場合に、割り当てるIPアドレス数を指定します。最大253個まで割り当てられます。
リース時間	DHCPサーバからクライアントに割り当てたIPアドレスの有効期限を設定します。1分～99999分単位で指定できます。0分を指定した場合は、24時間となります。初期値：0分(1日)
DNSサーバ1～3	LANポートに接続したパソコンに、割り当てたいDNSサーバを指定します。通常は、プロバイダから取得した情報が割り当てられます。

DHCPサーバ（つづき）

ボタン	説明
DHCPクライアントリスト	DHCPサーバに接続されたパソコンの情報を表示します。下記をご覧ください。
設定	入力内容が反映されます。
クリア	入力した内容を現在の情報に戻します。

●DHCPクライアントリスト

DHCP クライアントリスト　更新

DHCP サーバ IP アドレス:　192.168.0.1

クライアント ホスト名	IP アドレス	MAC アドレス	削除
User-PC1	192.168.0.2	00-A0-B0-43-0C-6F	☐
User-PC2	192.168.0.6	00-A0-B0-43-13-D8	☐
User-PC3	192.168.0.7	00-A0-B0-3D-00-CB	☐

項目	説明
クライアントホスト名	パソコン(クライアント)のホスト名を表示します。
IPアドレス	パソコン(クライアント)へ割り当てられたIPアドレスを表示します。
MACアドレス	パソコン(クライアント)のMACアドレスを表示します。

ボタン	説明
更新	リスト内容を最新情報に更新します。
削除	リストから削除します。

無線詳細設定

詳しい無線LAN設定ができます。通常は初期値が適正値であり、変更の必要はありません。

項目	説明
ビーコン間隔	ビーコンの間隔を1ms～65535msで設定します。ビーコンとは無線ネットワークを同期させるためにアクセスポイントから一定間隔で送信するパケットのことです。 初期値：100
RTSスレッショルド	RTSパケットのサイズを256～2432で設定します。 アクセスポイントは実際のデータを送信する前に、RTS(送信要求)パケットを送信して、データを送信して良いか確認しています。パケットのサイズを低めに設定すると、頻繁にRTSパケットが送出されるので、一般にスループットは低下します。 初期値：2432
フラグメンテーション	パケットが断片化される時のパケットサイズを256～2346(偶数のみ)で設定します。電波状況が悪い場所では値を低めに設定すると効果的ですが、一般にスループットは低下します。 初期値：2346

無線詳細設定（つづき）

項目	説明
DTIMインターバル	ビーコンに対し、どの程度の間隔でDTIMを挿入するかを1～65535の間隔で設定します。 DTIM（delivery traffic indication message）とは省電力モードの無線クライアントに対して、パケットが送信待ちであることを伝えるメッセージのことです。DTIMはビーコンに含まれて送信されています。 例えば“2”と設定すると、DTIMが含まれたビーコンと含まれていないビーコンが交互にアクセスポイントから送信されるようになります。初期値：1
基本レート	データを送受信する際に、最低の基本となる速度を設定できます。すべてのブロードキャストおよびマルチキャスト・トラフィックと、アソシエーション制御パケットを送信する際などに使用されます。通常、変更する必要はありません。
送信レート	データを送受信する際に、使用できる速度を設定できます。 通常、変更する必要はありません。 従来の無線LAN製品と接続できない場合、速度を固定することによって接続できる場合があります。
プリアンブルタイプ	データ転送におけるプレアンブル(信号の検出を制御し同期を記録するために無線LANに送信される予備信号)の同期信号幅を設定します。通常、変更する必要はありません。
認証方式	暗号化(WEP)の際に使用される認証方式を選択します。 Open System…開放型認証方式 Shared Key…共有鍵式認証方式 Open System & Shared Key（初期値）…上記両方とも
MACアドレス制限	無線で接続するパソコンを、MACアドレスで制限することができます。 有効：登録したMACアドレスユーザーのみ接続できます。 無効：特にMACアドレスによる制限は行いません。

ボタン	説明
無線MACアドレス設定	無線で接続されたパソコンのMACアドレスリストを表示します。次ページをご覧ください。
設定	設定内容を保存します。
クリア	入力した内容を消去します。

無線詳細設定（つづき）

●無線接続クライアントリスト

無線接続されたパソコンを確認したり、管理リストに登録できます。
表示は設定のパターンにより下記のように、背景色が変化します。

アクセス制限無効時	
背景色	説明
グレー	MACアドレス制限の設定が無効であることを示します。

アクセス制限有効時	
背景色	説明
緑	MACアドレス制限リストに登録されアクセスが許可されたクライアントを示します。
黄	MACアドレス制限リストの拒否にチェックされ、一時的にアクセス禁止となっているクライアントを示します。
赤	MACアドレス制限リストに登録されていないクライアントを示します。この状態のクライアントはアクセスできません。アクセスできるようにするにはMACアドレス制限リストで登録する必要があります。

項目	説明
クライアントホスト名	パソコン(クライアント)のホスト名を表示します。
IPアドレス	パソコン(クライアント)へ割り当てられたIPアドレスを表示します。
MACアドレス	パソコン(クライアント)のMACアドレスを表示します。
設定	表示されたパソコン(クライアント)を、無線MACアドレス管理リストへ追加します。

ボタン	説明
更新	リスト内容を最新情報に更新します。
MACアドレス制限リスト	無線で接続されたパソコンのMACアドレスによるアクセス許可/拒否の設定画面を表示します。

無線詳細設定（つづき）

●MACアドレス制限リスト（ワイヤレス）

無線接続されたパソコンのMACアドレスによるアクセス許可/拒否の設定ができます。（最大32クライアント）

MACアドレス制限リスト(ワイヤレス) 1~10

クライアント	MACアドレス	拒否
1:	00A0B03D00	
2:	0	
3:	0	
4:	0	
5:	0	
6:	0	
7:	0	
8:	0	
9:	0	
10:	0	

設 定　クリア

項目	説明
クライアント	登録されたパソコン（クライアント）を表示します。
MACアドレス	パソコン（クライアント）のMACアドレスを表示します。
拒否	チェックを入れると、一時的にそのパソコン（クライアント）がアクセス不可となります。

ボタン	説明
設定	入力内容が反映されます。
クリア	入力した内容を現在の情報に戻します。

スタティックルート

本製品が宛先となるネットワークにパケットを転送するときの静的ルーティング情報を設定します。

項目	説明
ルート設定の選択	設定するルートテーブルの番号を選択します。（最大20）
ネットワークアドレス	宛先のネットワークアドレスを入力します。
ネットワークマスク	宛先のサブネットマスクを入力します。
ゲートウェイアドレス	宛先のゲートウェイアドレスを入力します
メトリック	宛先のネットワークに到達するまでのルータの数を入力します。
ポート	宛先の存在するインターフェイス（WAN側またはLAN側）を選択します。

ボタン	説明
設定削除	ルートテーブル選択後、ボタンをクリックすると、情報を削除できます。
ルーティング設定リスト	設定したルーティングのリストが表示されます。 次ページをご覧ください。
設定	設定内容を保存します。
クリア	入力した内容を消去します。

スタティックルート（つづき）

●ルーティング設定リスト

ルータのルーティングテーブルを表示することができます。ルーティングテーブルは、ネットワーク相互接続形態を表示するルータによって作成されたデータベースです。

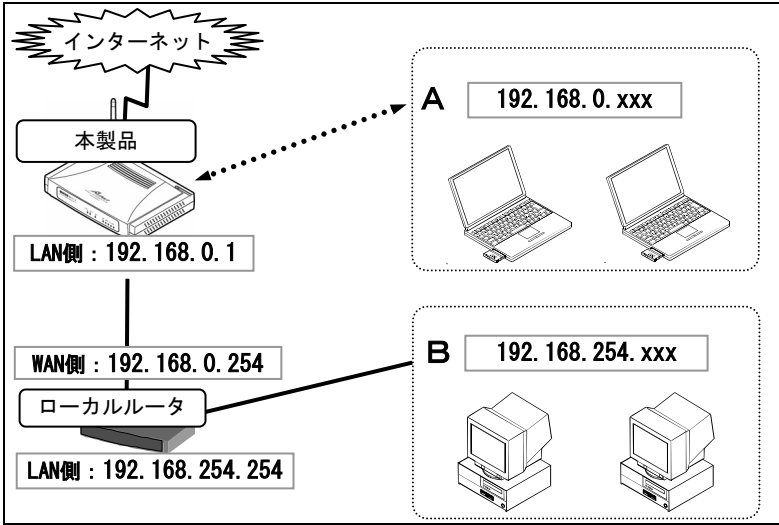
ルーティング設定リスト　更新

ネットワークアドレス	ネットワークマスク	ゲートウェイアドレス	メトリック	ポート
0.0.0.0	0.0.0.0	219.[illegible].188.125	1	WAN
219.[illegible].188.0	255.255.255.0	0.0.0.0	1	WAN
192.168.0.0	255.255.255.0	0.0.0.0	1	LAN

項目	説明
ネットワークアドレス	宛先のIPアドレスグループを表示します。
ネットワークマスク	宛先のサブネットマスクを表示します。
ゲートウェイアドレス	宛先のゲートウェイアドレスを表示します。
メトリック	宛先のネットワークに到達するまでのルータの数を表示します。
ポート	宛先が、WAN と LANのどちらを経由して接続されているかを表示します。

ボタン	説明
更新	最新の情報に更新します。

スタティックルート（つづき）

《ルーティングの設定例》
図(四角内の値はIPアドレス)のような環境で「ネットワークＡ」と「ネットワークＢ」で通信する場合の設定例です。（ネットワークＢからインターネットに接続する場合など）

本製品の[スタティックルート]設定でローカルルータが宛先となるように設定し、ローカルルータ側では本製品が宛先となるように設定します。

	本製品で設定する宛先の値
ネットワークアドレス	192.168.254.0
ネットワークマスク	255.255.255.0
ゲートウェイアドレス	192.168.0.254

※ローカルルータ側の設定については、ローカルルータの取扱説明書をご覧ください。

ダイナミックルート

[ダイナミックルート]では、NATパラメータの設定とRIP(Routing Information Protocol)に対応したルータ同士で動的なルーティングを行うための設定ができます。（LAN側のみ）

項目	説明
送信	無効：RIPの情報を本製品から送信しません。 RIP1：RIP1の情報を本製品から送信します。 RIP1-Compatible： RIP1-Compatibleサーバへ情報を本製品から送信します。 RIP2：RIP2の情報を本製品から送信します。
受信	無効：RIPの情報を他のルータから受信しません。 RIP1：RIP1の情報を他のルータから受信します。 RIP2：RIP2の情報を他のルータから受信します。

ボタン	説明
ルーティング設定リスト	ボタンをクリックすると、ルーティング情報のリストが表示されます。
設定	入力内容が反映されます。
クリア	入力した内容を現在の情報に戻します。

※ルーティング設定リストについては、97ページをご参照ください。

本体管理設定

本製品の現在の状態や設定ファイルなどに関する設定ができます。

管理設定

WAN側からのリモート操作に関する設定、WAN側からのPingへの応答、UPnP、VPNパススルーといった主にWAN側からLAN側へ通す各種プロトコルの設定や設定の初期化や再起動などを行います。

管理者	
項目	**説明**
新しいパスワード	本製品の設定画面を開くためのパスワードを設定できます。 英数半角文字20文字以内で入力します。 （すでに入力済みの●を削除して入力してください。）
パスワード再入力	確認のため再度パスワードを入力します。

管理設定（つづき）

その他管理設定	
項目	説明
WAN側MACアドレス変更	WAN側のMACアドレスを、変更します。
WAN側からのHTTP設定	WAN側からのリモート操作による設定の有効/無効を設定します。（アクセス時のポートは、8080）
MTU設定	MTU値の変更設定の有効/無効を設定します。 サイズ：MTU設定値を指定します。 （初期値：1500、PPPoEの場合のみ1454）
WANポートPing拒否	WAN側からのPingに応答するかどうかを指定します。 （初期値：機能⇒有効）
IPSecパススルー	VPN接続時、IPsecを利用する場合に選択します。
PPTPパススルー	VPN接続時、PPTPを利用する場合に選択します。
PPPoEパススルー	PPPoEセッションのパススルー設定を行います。 （初期値：無効） 有効にすると、ルータ下のパソコンから、PPPoEセッションを張ることができます。例えば、契約している回線が、2セッション利用可能な時は、そのクライアントからフレッツ・スクウェアにPPPoE接続することが可能となります。 （フレッツ・スクウェア接続中は、そのパソコンからはインターネット接続はできません。）
UPnP	有効：UPnPを有効にします。 無効：UPnPを無効にします。 UPnPとは、Universal Plug and Play（ユニバーサル・プラグ・アンド・プレイ）の略で、ネットワーク装置、ソフトウェア、および周辺機器の間での適合性を提供するネットワークアーキテクチャのことをいいます。本製品はUPnP対応ルータであり、UPnPに対応したOS/ソフトウェアとの組み合わせで動作します。（仮想サーバの[UPnPフォワード設定]が優先されます。）
本体再起動	再起動を行うかどうかの設定します。
初期設定に戻す	設定情報の初期化を行うかどうかの設定します。

ボタン	説明
設定	入力内容が反映されます。
クリア	入力した内容を現在の情報に戻します。

ステータス情報

本製品の現在の状態を確認できます。

Product Name
説明
本製品の製品名を表示します。

Firmware Version
説明
現在のファームウェアバージョンを表示します。

Login
説明
本製品のWAN側の接続状態を表示します。WAN側の接続形態により表示が異なります。 ・IPアドレス自動取得/固定設定接続の場合：常に「無効」と表示されます。 ・PPPoE認証接続の場合：現在の接続状況を表示します。（[接続中]または[切断中]）

▼[PPPoE認証接続]の場合のみ

ボタン	説明
接続	インターネットに接続します。
切断	インターネットから切断します。

ステータス情報（つづき）

WANポート	
項目	**説明**
IPアドレス	本製品(WAN側)のIPアドレスを表示します。
サブネットマスク※	本製品(WAN側)のサブネットマスクを表示します。
デフォルトゲートウェイIPアドレス※	本製品(WAN側)のデフォルトゲートウェイIPアドレスを表示します。
DNSサーバ1～3	本製品(WAN側)のDNS(ネーム)アドレスを表示します。

※[IPアドレス自動取得]、[IPアドレス固定設定]の場合のみ表示されます。

▼[IPアドレス自動取得]の場合のみ

ボタン	説明
DHCP解放	クリックすると、IPアドレスを解放します。
DHCP取得	クリックすると、IPアドレスを再取得します。

LANポート	
項目	**説明**
IPアドレス	本製品(LAN側)のIPアドレスを表示します。
サブネットマスク	本製品(LAN側)のサブネットマスクを表示します。

ボタン	説明
DHCPクライアントリスト	DHCPサーバに接続されたパソコンの情報を表示します。

※DHCPクライアントリストについては、91ページをご参照ください。

設定の保存と復元

[設定の保存と復元]では、設定をファイルとして保存し、さまざまな状況に備えるためにファイルを復元することができます。

項目	説明
設定の保存	本製品の各種設定情報をファイルに保存できます。 ファイル名は、任意の名前を付けることができます。 デフォルトファイル名：NVCfgData.cfg
設定の復元	[設定の保存]で保存したファイルから、本製品の各種設定情報を復元できます。

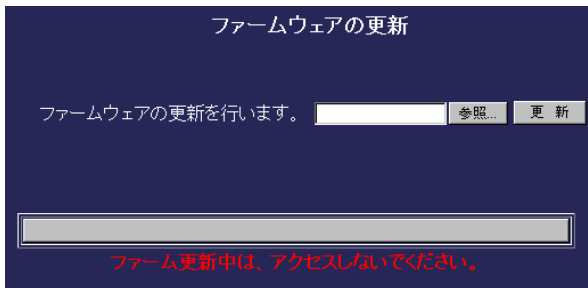
ファームウェアの更新

［ファームウェアの更新］では本製品のファームウェアを最新にアップデートすることができます。

1 弊社ホームページの「サポートライブラリ」（http://www.iodata.jp/lib/）から、最新のファームウェアファイルを入手します。

2 安全に更新するために、以下の作業を行ってください。
・設定を行うパソコンのみ本製品に接続します。
・WANポートのケーブルを外します。
・パソコンに常駐しているソフトウェアを停止します。

3 ［ファームウェアの更新］をクリックします。

4 以下の画面が表示されますので、［参照］ボタンでファームウェアファイルの場所を指定します。
指定後、［更新］ボタンをクリックします。ステータスバーが、100%となるまで、そのままお待ちください。
⇒更新が正常に終了すると、設定完了画面が表示されます。

更新中は、絶対に本製品の電源を切らないでください。故障の原因となります。

5 ［ステータス情報］の［Firmware Version］で、更新後のバージョンになっていることをご確認ください。

Windows(MSN) Messengerについて

ここでは、Windows MessengerやMSN Messengerを利用する方法やUPnP設定について説明します。

Windows(MSN) Messengerを利用する

Windows（MSN） Messengerの確認方法を説明します。

☞ 108ページ

UPnPを設定する

UPnPの設定/確認方法を説明します。

☞ 109ページ

Windows(MSN) Messengerを利用する

本製品ではユニバーサルプラグアンドプレイ(UPnP)機能を使用し、下記に対応しております。

●Windows XPのWindows Messenger（Ver.4.6以上）
●Windows XPのMSN Messenger（Ver.5.0以上）
※UPnPを使用するときは、最新のアプリケーションをご利用ください。
※Windows MeのMSN Messengerは対象外です。

UPnP機能を有効にして、Windows(MSN) Messengerを利用すると、下記がお楽しみいただけます。

「インスタントメッセージの送信」
「音声チャット」
「ビデオチャット」
「アプリケーションの共有」
「ホワイトボード」
「リモートアシスタンス」
「ファイルまたは写真の送信」

以下のような環境の場合、UPnP機能を使用してもWindows Messenger、MSN Messengerの一部機能しかご利用できませんのでご注意ください。

・プロバイダから、プライベートIPアドレスを割り当てられている場合
・ルータ機能内蔵タイプのADSLモデムに接続して使用する場合

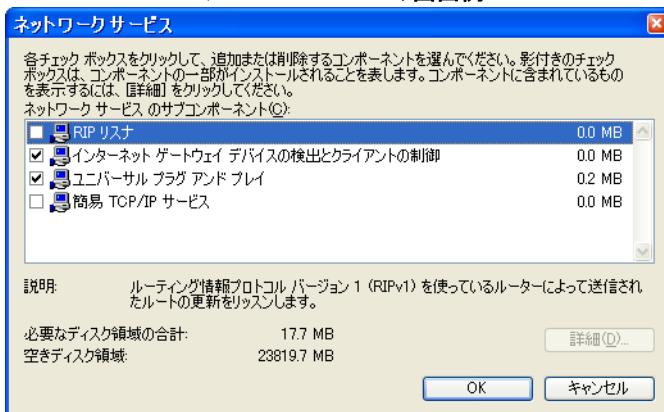
Windows Messenger、MSN Messengerの使用方法については、マイクロソフト株式会社にお問い合わせください。

UPnPを設定する

本製品は初期設定でUPnP機能が有効になっていますが、Windowsで下記設定をする必要があります。（【本体管理設定】の【管理設定】100ページ参照）

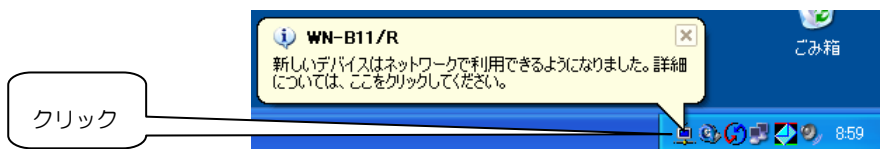
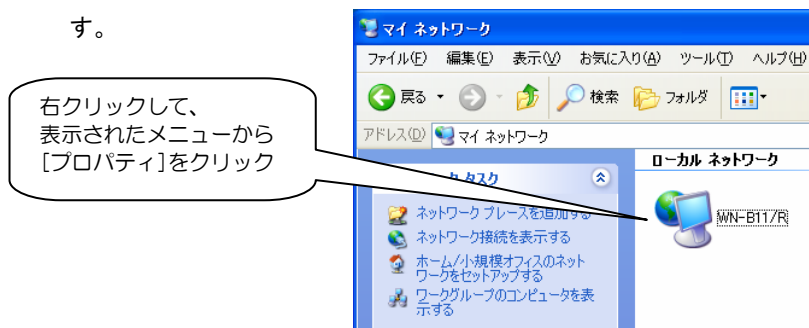
●UPnPを設定する

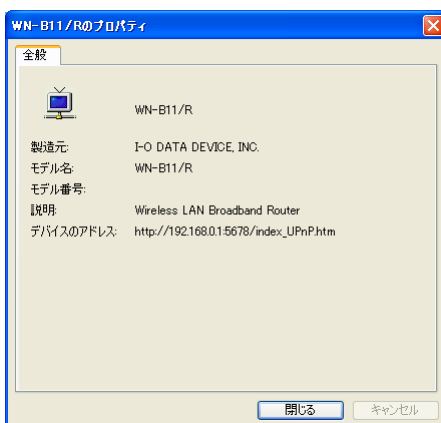
①[スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。
②[プログラムの追加と削除]を開き、[Windowsコンポーネントの追加と削除]を開きます。
③[ネットワークサービス]を選び、[詳細]ボタンをクリックします。
④[ユニバーサルプラグアンドプレイ]にチェックを入れて[OK]ボタンをクリックします。
また、Windows XP SP1の場合は、[インターネットゲートウェイ…]にもチェックがついていることを確認します。

▼Windows XP SP1の画面例

⑤「Windowsコンポーネントウィザード」に戻りますので[次へ]ボタンをクリックします。
⑥ウィザードが完了したら[完了]をクリックします。

これでUPnP機能は有効になります。

●UPnPを確認する

①UPnP機能が有効になると、ネットワーク上の本製品が検出され以下の画面が表示されますのでクリックします。

②「WN-B11/R」アイコン上で右クリックし、[プロパティ]をクリックします。

③下の画面が表示されていたら、正常に本製品が認識されています。

※正常に認識されていない場合は、【●UPnPを設定する】(前ページ)をご覧の上、設定をご確認ください。

リモートデスクトップについて

ここでは、Windows XP Professionalでのリモートデスクトップを利用する方法について説明します。

リモートデスクトップを設定する

リモートデスクトップを利用できるように設定します。

☞ 112ページ

インターネット側から利用する

インターネット側から、ダイナミックDNSを利用してリモートデスクトップを利用する方法を説明します。

☞ 116ページ

リモートデスクトップの設定、使用方法については、マイクロソフト株式会社へお問い合わせください。

リモートデスクトップを設定する

リモートデスクトップを利用できるように設定します。

①仮想サーバを設定する

1 本製品の仮想サーバを設定します。

例） IPアドレス：192.168.0.50のパソコンでリモートデスクトップを利用する場合
仮想サーバにリモートデスクトップの使用ポート(TCP:3389)を設定します。（設定方法は【仮想サーバ】82ページをご覧ください。）

仮想サーバ

設定項目				プロトコル	ホストIPアドレス
仮想サーバ1	3389	～	3389	TCP	192.168.0.50
仮想サーバ2	0	～	0	TCP/UDP	192.168.0.0
仮想サーバ3	0	～	0	TCP/UDP	192.168.0.0
仮想サーバ4	0	～	0	TCP/UDP	192.168.0.0
仮想サーバ5	0	～	0	TCP/UDP	192.168.0.0
仮想サーバ6	0	～	0	TCP/UDP	192.168.0.0
仮想サーバ7	0	～	0	TCP/UDP	192.168.0.0
仮想サーバ8	0	～	0	TCP/UDP	192.168.0.0
仮想サーバ9	0	～	0	TCP/UDP	192.168.0.0
仮想サーバ10	0	～	0	TCP/UDP	192.168.0.0

注意！

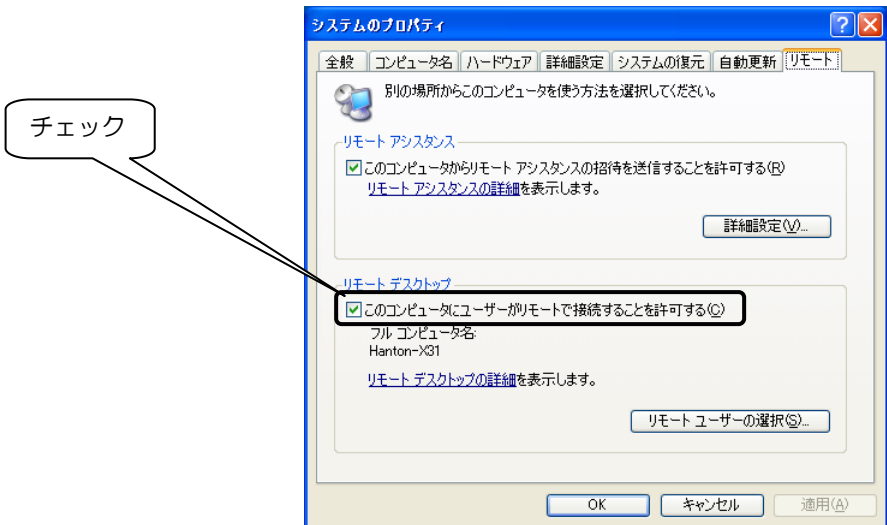
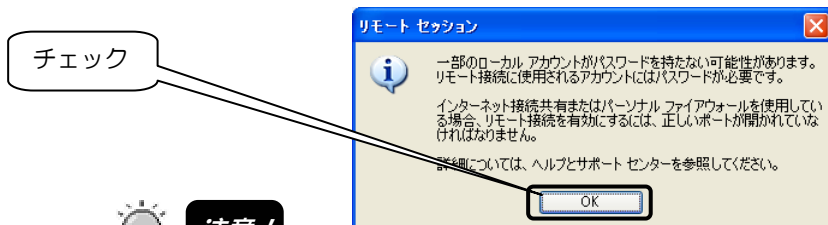
対象のパソコンは、固定 IP 設定を行ってください。
(設定例)

IP アドレス	192.168.0.50
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.0.1
DNS サーバ	192.168.0.1

②リモートデスクトップの設定をする

リモートデスクトップを利用できるかを確認します。

1 リモートデスクトップを有効にします。

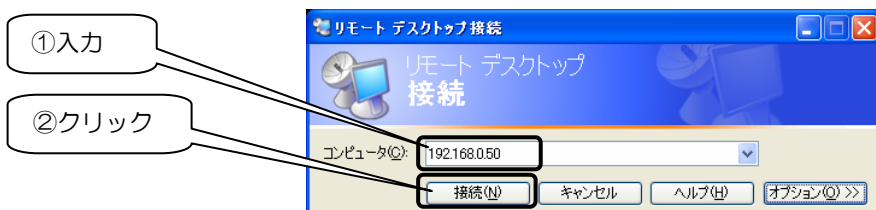
[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[システム]を開き、[リモート]タブをクリックし、[このコンピュータにユーザーがリモート接続することを許可する]にチェックを入れます。

2 以下の画面が表示されますので、[OK]ボタンをクリックします。

注意！

パスワードを設定していない時は、パスワードを設定してください。
[コントロールパネル]→[ユーザーアカウント]から、変更するアカウントを選び、パスワードを作成します。

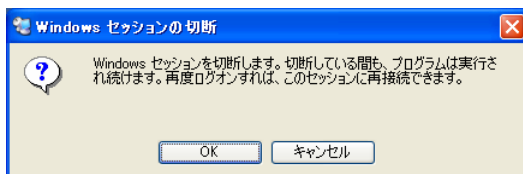
②リモートデスクトップの設定をする（つづき）

3 同じLAN上の別のパソコンから、リモートデスクトップ接続を実行します。

①[プログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[リモートデスクトップ接続]をクリックします。

②以下の画面が表示されますので、リモートデスクトップで入りたいパソコンのIPアドレス(例では192.168.0.50)を入力し、[接続]ボタンをクリックします。

4 [ユーザー名]と[パスワード]を入力し、[OK]ボタンをクリックします。

5 目的のパソコンに接続され、画面が表示されます。

以上で、リモートデスクトップが利用できることを確認できました。
右上の[X]をクリックし終了します。以下の画面が表示されますので、[OK]ボタンをクリックしてください。

③本製品のダイナミックDNS機能を設定する

1 本製品のダイナミックDNSを有効にします

【ダイナミックDNS】(88ページ)にて、iobb.netに登録し設定します。

ダイナミックDNS

項目　◉ 有効 ○ 無効

シリアルナンバー　ABC0987654ZX

パスワード　●●●●●●●●●

ホスト名　user .iobb.net

WAN側IPアドレス　219.104.　.73

ステータス　ダイナミックDNSの情報を更新しました

[設　定]　[アドレスの更新]

（サーバ負荷の原因となるため更新はむやみに実行しないでください。アカウントを無効にする場合があります。）

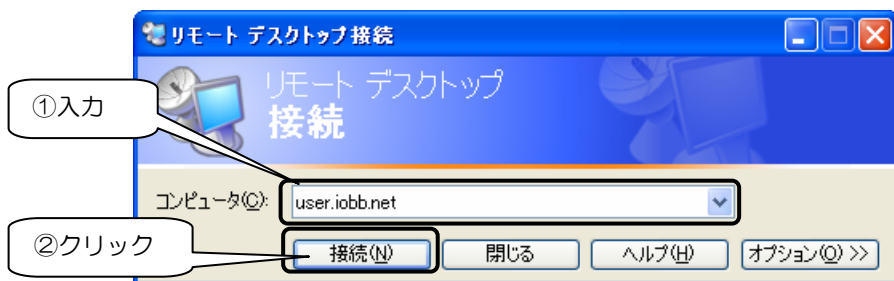
これで設定できました。

【インターネット側から利用する】(次ページ)へお進みください。

インターネット側から利用する

インターネット側から、ダイナミックDNSを利用してリモートデスクトップを利用する方法を説明します。
インターネット側(外出先のホットスポットなど)から、リモートデスクトップ接続を実行します。

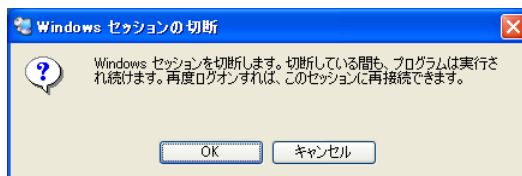
1 [プログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[リモートデスクトップ接続]をクリックします。

以下の画面が立ち上がりますので、リモートデスクトップで利用したいパソコンのアドレス(例ではuser.iobb.net)を入力し、[接続]ボタンをクリックします。

2 [ユーザー名]と[パスワード]を入力し、[OK]ボタンをクリックします。

リモートデスクトップ（つづき）

3 目的のパソコンに接続され、画面が表示されます。

以上で、インターネット側からの接続が完了しました。

終了する時は、右上の[X]をクリックします。
以下の画面が表示されますので、[OK]をクリックしてください。

その他

出荷時設定に戻す

パスワードを忘れてしまったときなどに、本製品の設定を出荷時設定に戻します。（初期化）

☞ 120ページ

TCP/IPの基礎知識

本製品を設定するときに必要なTCP/IPについて説明します。

☞ 121ページ

AirMac、AirMac Extremeから接続する

AirMacやAirMac Extremeで本製品と接続する方法を説明します。

☞ 123ページ

困った時には

本製品を使用して異常があった場合にご覧ください。

☞ 128ページ

用語解説

用語について説明します。

☞ 145ページ

仕様

本製品の仕様です。

☞ 154ページ

アフターサービス

本製品の問い合わせ先、修理先です。

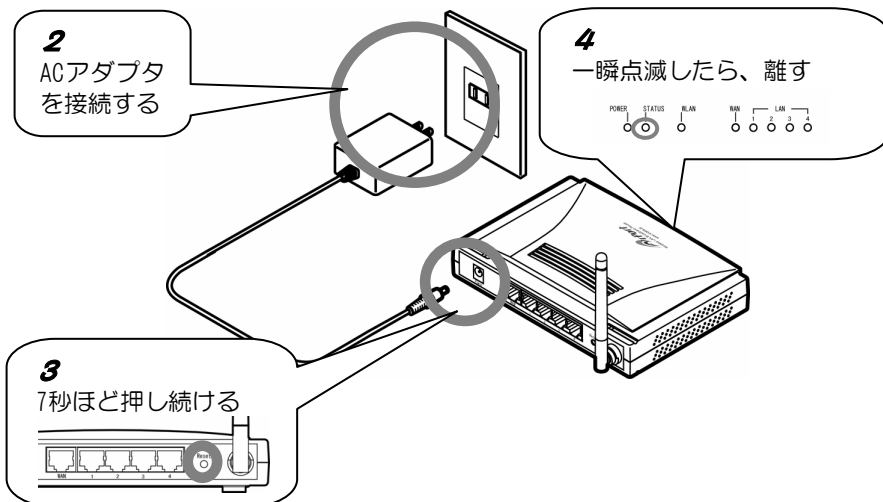
☞ 157ページ

出荷時設定に戻す

本製品のIPアドレスを忘れてしまったときなどに、本製品を出荷時設定に戻します。

以下の手順を行うと、設定内容はすべて出荷時設定に戻ります。

●リセットスイッチで戻す

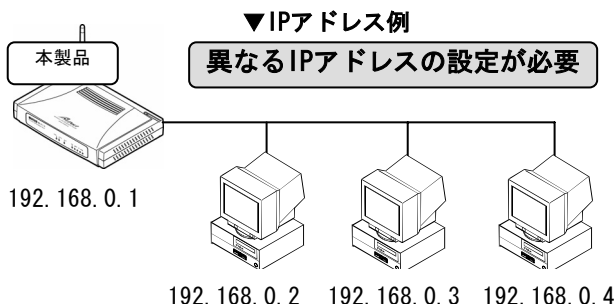
1. 本製品に接続しているLANケーブルをすべて取り外します。
2. ACアダプタを接続し、POWERランプが点灯したことを確認します。
3. 細いピンなどでリセットスイッチを7秒以上押し続けます。
4. STATUSランプが一瞬点滅したら、リセットスイッチを離します。
   →本製品が再起動します。[POWER]ランプ、[WLAN]ランプのみが点灯している状態になったら、再起動完了です。
   これで、出荷時設定に変更されました。

●Web設定画面で戻す

Web設定画面で行います。詳しくは、【管理設定】100ページをご覧ください。

TCP/IPの基礎知識

ここでは、本製品を使用する上で必要となるTCP/IPプロトコルのIPアドレスの基礎知識について説明します。必要に応じてお読みください。

同じネットワーク上では別々のIPアドレスが必要

ネットワーク上で使用するブロードバンドルータ（本製品）や各パソコンには、“192.168.0.1”のようにピリオドで４つに区切られた数字を設定する必要があります。
これをIPアドレスと言い、ネットワーク上で同じにならないように設定する必要があります。

インターネットのIPアドレスとLANのIPアドレス

IPアドレスには、「グローバルIPアドレス」と「ローカルIPアドレス」（プライベートIPアドレス）があります。
「グローバルIPアドレス」は、インターネットで使用するIPアドレスです。
「ローカルIPアドレス」は、LAN内で使用するIPアドレスです。

グローバル IP アドレス	ネットワーク上で別々の IP アドレスが必要であるように、インターネットを利用する世界中のすべてのパソコンがそれぞれ別々の IP アドレスを使用する必要があります。この IP アドレスがグローバル IP アドレスです。 通常、プロバイダより割り当てられます。
ローカル IP アドレス	インターネットに接続されていない環境（家庭内のみ、会社内のみなど）では、ネットワーク内で別々の自由な IP アドレスを使用することができます。 この IP アドレスがローカル IP アドレスです。

LAN内で使用するIPアドレスのクラス

IPアドレスは、ネットワークを構成するパソコンの台数に応じて、３つのクラスに分かれます。
大規模なネットワークならば［クラスＡのIPアドレス］、中規模なら［クラスＢのIPアドレス］、小規模の場合は［クラスＣのIPアドレス］となります。
同一のネットワーク内では、同一クラスのIPアドレスである必要があります。
実際には、IPアドレスの４つの数字の最初の数字の値で、クラスが分けられます。

この数字でクラス分け

IPアドレス　　xxx.xxx.xxx.xxx

例　本製品の出荷時のIPアドレス「192.168.0.1」の場合は「192」

クラスは次のように分類されています。

IP アドレスの最初の数字※	クラス	用途（ネットワークを構成するパソコンの台数）
1～126	クラスＡ	大規模ネットワーク用（最大約 1600 万台）
128～191	クラスＢ	中規模ネットワーク用（最大約 65000 台）
192～223	クラスＣ	小規模ネットワーク用（最大 254 台）

※「127、224～255」は通常の IP アドレスとしては使われていません。

例えば、数台～数10台で構成されるネットワークでは、クラスＣのIPアドレスを使用します。
通常、ネットワークを構成する場合は、以下の特別なローカルIPアドレスを使用します。

クラス	設定する IP アドレス
クラスＡ	10.0.0.0　～　10.255.255.255
クラスＢ	172.16.0.0　～　172.31.255.255
クラスＣ	192.168.0.0　～　192.168.255.255

AirMac、AirMac Extremeから接続する

ここでは、AirMacやAirMac Extremeで接続する手順を説明します。

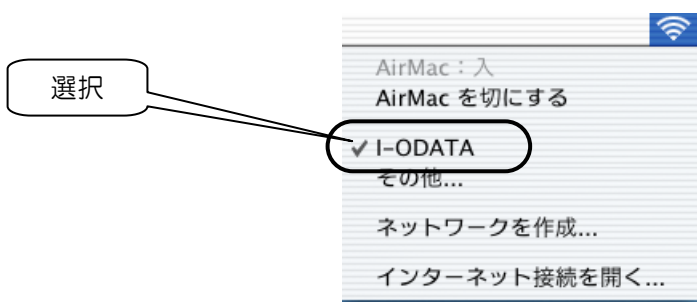
AirMac、AirMac Extremeから本製品に接続する

●Mac OS Xでの設定例 (Mac OS (Classic)の場合は125ページ参照)

1 メニューバーのAirMacアイコンをクリックし、[AirMacを入にする]を選択します。

2 AirMacのメニューから本製品に設定したSSIDを選択します。

SSIDは自動で検出されます。

▼本製品のSSIDを“I-ODATA”に設定した時の選択例

AirMac、AirMac Extremeから本製品に接続する（つづき）

3 暗号化済みの本製品に接続する場合、暗号キーが要求されます。

AirMac、AirMac Extremeでは暗号キーの入力方法が特殊です。入力方法については、【AirMac、AirMac Extremeでの暗号化について】（127ページ）をご覧ください。

4 メニューバー上のAirMacアイコンが になっていることを確認します。

これで、接続完了です。

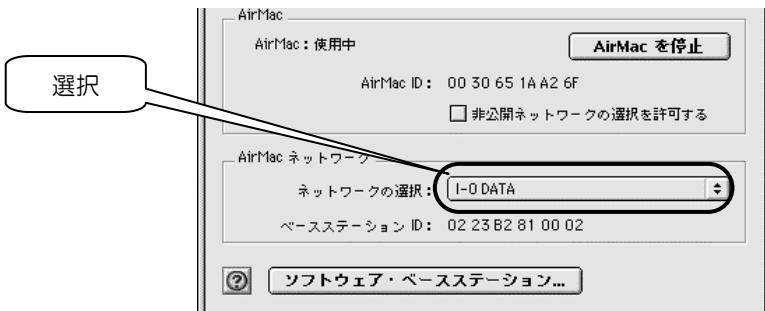
AirMac、AirMac Extremeから本製品に接続する（つづき）

●Mac OS（Classic）での設定例

1 ［アップルメニュー］→［AirMac］をクリックします。

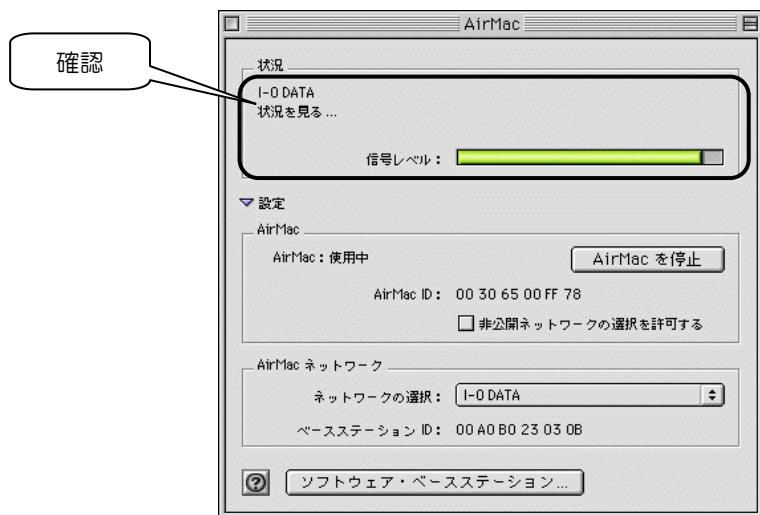
2 ［AirMacネットワーク］内の［ネットワークの選択］で本製品に設定したSSIDを選択します。

SSIDは自動で検出されます。

▼本製品のSSIDを“I-ODATA”に設定した時の選択例

3 暗号化済みの本製品に接続する場合、暗号キーが要求されます。

AirMacでは暗号キーの入力方法が特殊です。入力方法については、【AirMac、AirMac Extremeでの暗号化について】（127ページ）をご覧ください。

AirMac、AirMac Extremeから本製品に接続する（つづき）

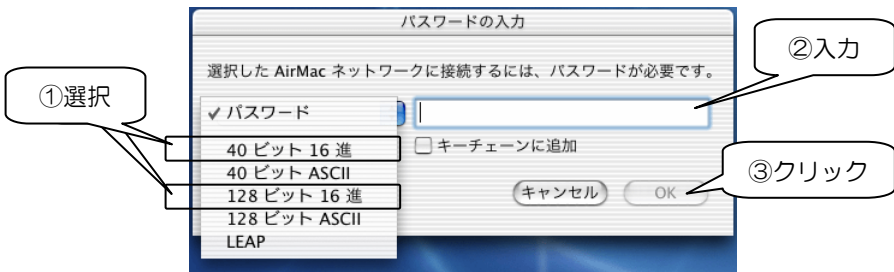
4 ［状況］内に本製品に設定したSS IDと信号レベルの表示があることを確認します。

これで、接続完了です。

AirMac、AirMac Extremeでの暗号化について

※[パスワード]とは、本製品で設定したWEP(暗号キー)のことです。

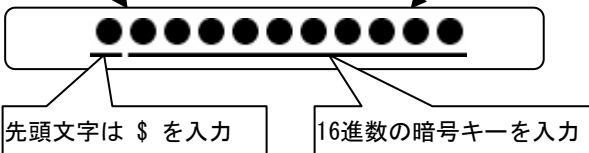
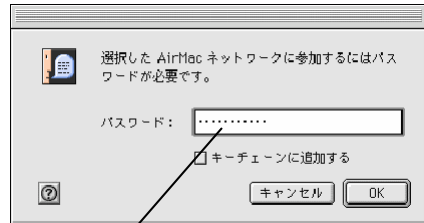
●本製品に16進数での暗号化を行っている場合

Mac OS X でパスワード項目を選択できる場合

①[40 ビット 16 進]または[128 ビット 16 進]を選択します。
②本製品で設定した暗号キーをそのまま入力してください。
③[OK]ボタンをクリックします。

上記以外の場合（パスワード項目を選択できない場合）

本製品で設定した暗号キーの頭に　$　(半角ドル記号)を付けて入力します。

例）$1234567890

▼Mac OS X　　▼Mac OS (Classic)

困った時には

本製品を使用していて異常があった場合にご覧ください。

弊社ホームページをご覧ください

サポートWebページ内には、過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらも参考にしてください。

http://www.iodata.jp/support/

製品Q＆A
Newsなど

ファームウェアをバージョンアップすると解決することがあります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のファームウェアをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/

最新
ファームウェア

【設定時のトラブル】

状態	参照ページ
ランプが点灯しない	130
設定画面が表示されない	130
パスワードを入力しても、設定画面が起動しない	136
パスワードを忘れてしまった	136
設定画面で文字が入力できない	136
CATV 局がユーザを［コンピュータ名］で管理している場合の設定方法がわからない	136
PPPoE 接続で取得したグローバル IP アドレスを調べたい	136
パソコンを IP アドレスなどの自動取得（DHCP クライアント）として設定しているのに、IP アドレスなどを取得できない	137
LAN 側の IP アドレスを変更したら接続できなくなった	138
［TCP/IP］が表示されていない （Windows Me/98 SE の場合）	138

【インターネット接続時のトラブル】

状態	参照ページ
PPPoE 認証でインターネットに接続できない	140
IP アドレス自動取得/固定設定接続でインターネットに接続できない（IP アドレスが取得できない）	141
ブラウザを起動すると、以下のエラーが表示される *「モデムが正しく応答していません。モデムが電話回線およびコンピュータに正しく接続されているかどうかを確認してください。」*	142

【無線LAN接続時のトラブル】

状態	参照ページ
暗号化（WEP）を使用したら通信速度が低下した	143
他のアクセスポイントと無線通信できない（アクセスポイントモード時）	143
無線LAN製品側のパソコンと通信できない	143
無線LAN製品側のパソコンとの通信速度が遅い、不安定	144

ランプが点灯しない

原因１	《[POWER]ランプが点灯しない場合》 ACアダプタを取り付けていない
対処	付属のACアダプタを取り付けてください。ACアダプタは必ず付属のものをご使用ください。ACアダプタを抜いた直後は、5秒以上待ってから取り付けてください。

原因２	《[WAN]ランプが点灯しない場合》 [WAN]ポートに取り付けたモデムのLANケーブルが正しく接続できていない、モデムの電源が入っていない
対処	モデムの接続とモデムの電源が入っていることをご確認ください。

原因３	《[LAN]ランプ(1～4)が点灯しない場合》 [LAN]ポート(1～4)に取り付けたパソコンのLANケーブルが正しく接続できていない、パソコンの電源が入っていない
対処	パソコンの接続と電源が入っていることをご確認ください。

設定画面が表示されない

原因１	接続が正しくない
対処	【②設定用パソコンをつなぐ】(25ページ)をご覧になり、接続が正しいことをご確認ください。

原因２	設定用パソコンのIPアドレスが自動取得になっていない。
対処	【③IPアドレスを設定する】(35ページ)をご覧になり、IPアドレスの設定が正しいことをご確認ください。

原因３	セキュリティ関連のソフトウェアをインストールしている。
対処	セキュリティ関連のソフトウェアの機能を一部解除すると動作する場合があります。詳しくは、セキュリティ関連のソフトウェアメーカにお問い合わせください。

原因４	【50ページで本製品のIPアドレスを変更した場合】 IPアドレスが正常に取得できていない
対処	現在、設定用パソコンで取得しているIPアドレスをいったん解放し、再取得します。次ページの参考にしたがってください。

●IPアドレスの解放と更新方法

《Windows XP/2000の場合》

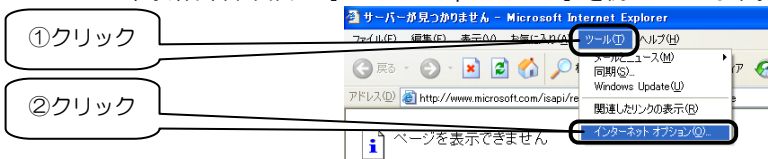
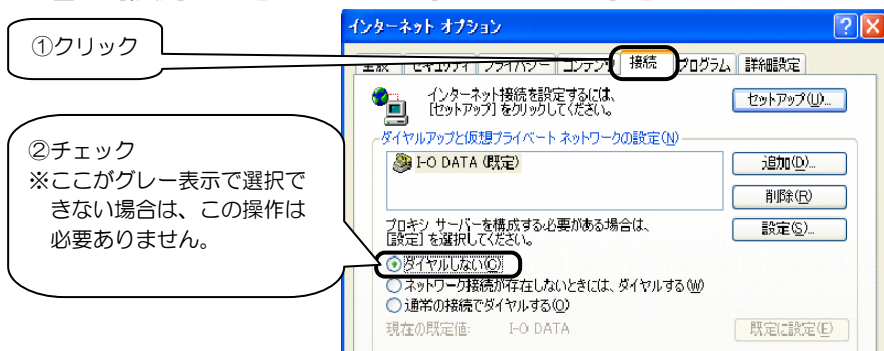
①コマンドプロンプトを起動します。
・Windows XPの場合
［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→
［コマンドプロンプト］を順にクリックして起動します。
・Windows 2000の場合
［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］
を順にクリックして起動します。
②IPCONFIG -RELEASE　と入力し、[Enter]キーを押します。
→IPアドレスなどがすべて0.0.0.0になります。
③IPCONFIG -RENEW　と入力し、[Enter]キーを押します。
→IPアドレスを再取得します。
④IPCONFIG -ALL　と入力し、[Enter]キーを押します。
→IPアドレスをご確認ください。

《Windows Me/98 SEの場合》

①WINIPCFGを起動します。
［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックして、WINIPCFG
と入力し、[OK]ボタンをクリックします。
②[すべて解放]ボタンをクリックし、[OK]ボタンをクリックします。
③パソコンを再起動します。

原因５	Webブラウザがダイヤルアップする設定になっている。
対処	下記の手順にしたがってください。

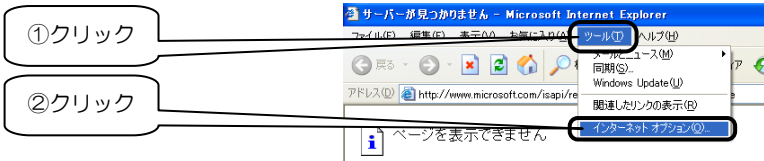
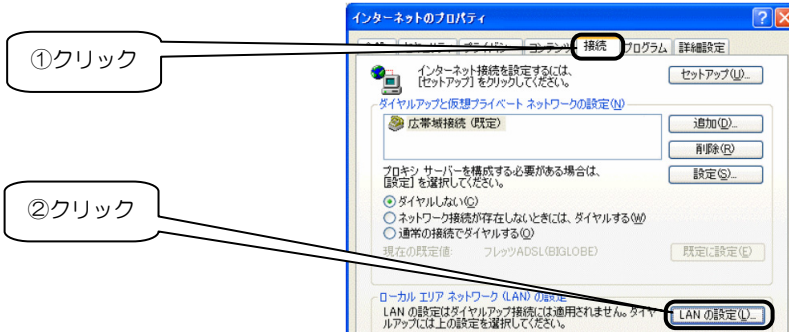
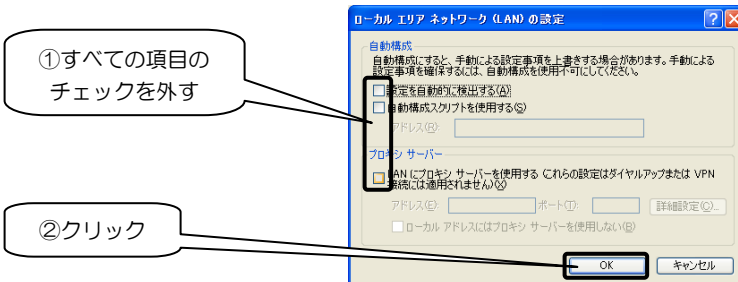
1 ［Internet Explorer］画面の［ツール］メニューの［インターネット オプション］をクリックします。

※本手順以降、画面は［Internet Explorer 6.0］を例にしています。

2 ［接続］タブをクリックし、［ダイヤルしない］をチェックします。

これで設定は完了です。

原因６	Webブラウザが、プロキシ経由でインターネット接続するようになっている。
対処	ブラウザがプロキシサーバを使用する設定になっている場合、 本製品の設定画面を呼び出す事ができません。 ブラウザの設定でプロキシサーバを使わない設定にしてください。 下記の各ページをご覧ください。 Windows の場合⇒次ページ Mac OS X の場合⇒134 ページ Mac OS(Classic)の場合⇒135ページ

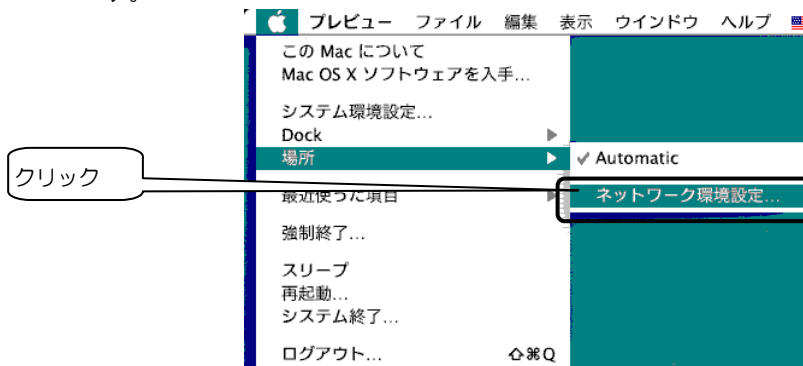
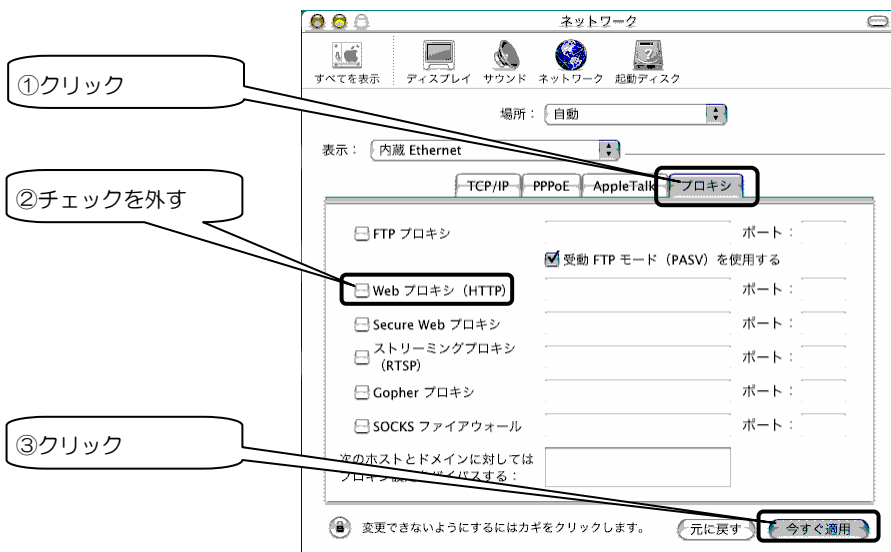
Windowsでプロキシの設定をする

1 Internet Explorerを起動し、[ツール]メニューの[インターネット オプション]をクリックします。

※本手順以降、画面は［Internet Explorer 6.0］を例にしています。

2 [接続]タブをクリックし、[LANの設定]ボタンをクリックします。

3 下記の設定を行います。

4 [インターネット オプション](または[インターネットのオプション])へ戻りますので、[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じます。

これで設定は完了です。

Mac OS Xでプロキシの設定をする

1 [アップルメニュー]→[場所]→[ネットワーク環境設定...]を選択します。

2 [プロキシ]タブをクリックし、以下の設定を行います。

3 設定後、左上の（×）をクリックして画面を閉じます。

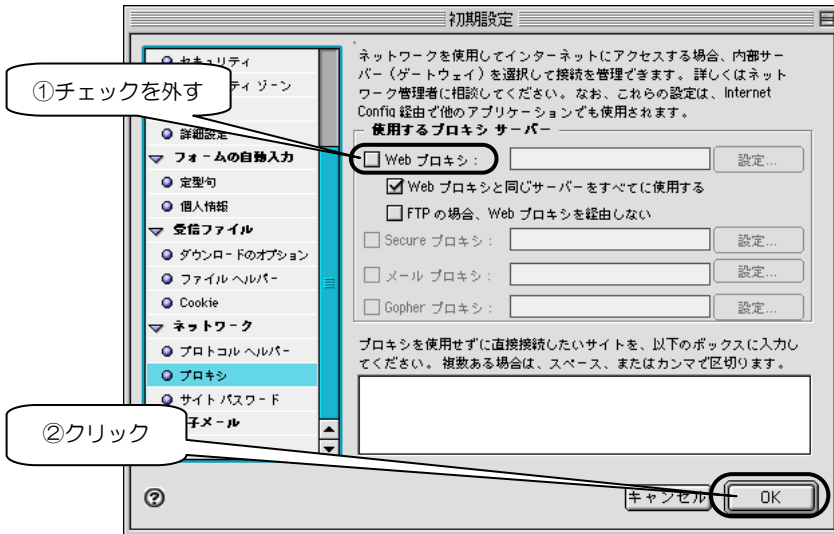
これで設定は完了です。

Mac OS (Classic)でプロキシの設定をする

1 Internet Explorerを起動します。

2 [編集] → [初期設定...] を選択します。

3 [▽ネットワーク] の [プロキシ] を選択します。

4 以下の設定を行います。

これで設定は完了です。

パスワードを入力しても、設定画面が起動しない

原因	パスワードが間違っている
対処	正しいパスワードを入力してください。（大/小文字もご確認ください。）パスワードを忘れてしまった場合は、【パスワードを忘れてしまった】（下記）をご覧ください。

パスワードを忘れてしまった

対処	【出荷時設定に戻す】（120ページ）で、出荷時設定に戻してください。パスワードは出荷時設定で“IODATA”に設定されています。 また、その他の設定も初期化されますので、再設定してください。

設定画面で文字が入力できない

原因１	入力個所をクリックしていない。
対処	一度入力したい個所をクリックしてから入力してください。

原因２	入力できない文字を入力しようとしている。
対処	入力できる文字（半角英数字）かを確認してから入力してください。

CATV局がユーザを［コンピュータ名］で管理している場合の設定方法がわからない

対処	CATV局からの［コンピュータ名］を、本製品の［ホスト名］に設定してください。 （[基本設定]→[LAN側設定]→[ホスト名]で設定してください。）

PPPoE接続で取得したグローバルIPアドレスを調べたい

対処	設定メニューから［ステータス情報］をクリックします。 PPPoEで取得したグローバルIPアドレス（[IPアドレス]）、プロバイダ側でゲートとなっているマシンのグローバルIPアドレス、DNS(ネーム)サーバーアドレスを確認する事ができます。

パソコンをIPアドレスなどの自動取得（DHCPクライアント）として設定しているのに、IPアドレスなどを取得できない

原因	ネットワークの設定に問題がある
対処	本製品の[1]～[4]ランプ(LAN)が正しく点灯している場合は、以下の対応方法が考えられます。 ⇒ 131ページのアドレスの解放と更新を行う。 ⇒ LANアダプタのドライバを最新のものへ更新する。 （ドライバの更新、通信方式の変更方法につきましてはLANアダプタのメーカへお問い合わせください。） ⇒ パソコンとの間にスイッチングハブがある場合は、スイッチングハブを初期化する。 （スイッチングハブの初期化方法についてはスイッチングハブのメーカへお問い合わせください。） ⇒ 本製品を再起動する。（ACアダプタを抜き差ししてください。） ⇒ FTTH/ADSL/CATVモデムを初期化(リセット)する。 （モデムの初期化(リセット)方法についてはモデムメーカへお問い合わせください。） これらの方法でもDHCPクライアントとしてIPアドレスなどを取得することができない場合は、固定（手入力）でネットワークの設定を行ってください。なお、固定でネットワークの設定を行う場合は、ネットワークアドレスを合わせる必要があります。 デフォルト値（工場出荷値）で運用する場合は、TCP/IP設定に以下の値を使用します。 **IPアドレス：192.168.0.2～192.168.0.254から他の機器と重複しない任意のIPアドレス** **サブネットマスク：　255.255.255.0** **デフォルトゲートウェイ（ルータアドレス）：　192.168.0.1** **DNSアドレス：　192.168.0.1**

LAN側のIPアドレスを変更したら接続できなくなった

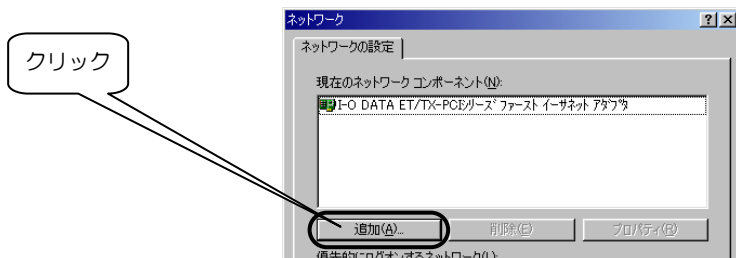
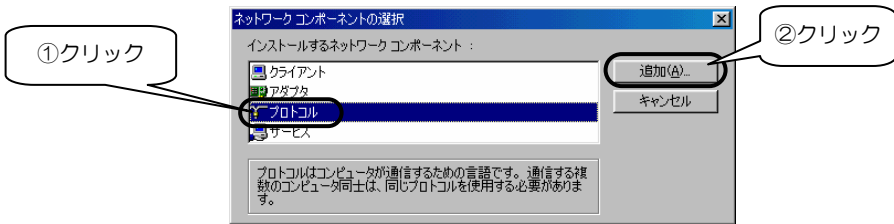
対処	**・パソコンに固定で IP アドレスを設定している場合** ①パソコンの IP アドレスには、新しく設定した（変更した）ルータの LAN 側 IP アドレスと同じネットワーククラスの IP アドレスを設定してください。 ②パソコンのゲートウェイ（ルータアドレス）と DNS アドレスには、新しく設定した（変更した）ルータの LAN 側 IP アドレスを設定してください。 **・パソコンに IP アドレスを自動的に取得させている場合** パソコンの再起動、または、パソコンが自動的に取得しているアドレスの解放と書き換えを行ってください。（【IPアドレスの解放と更新方法】（131ページ）参照）

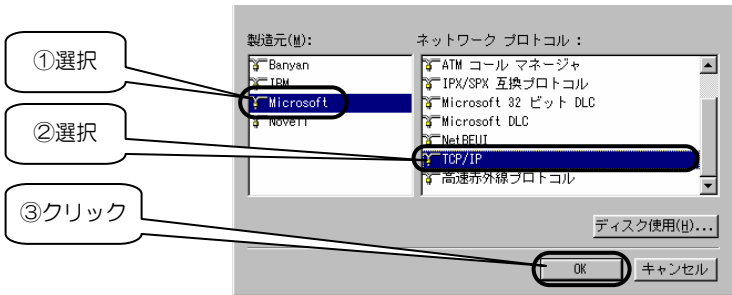
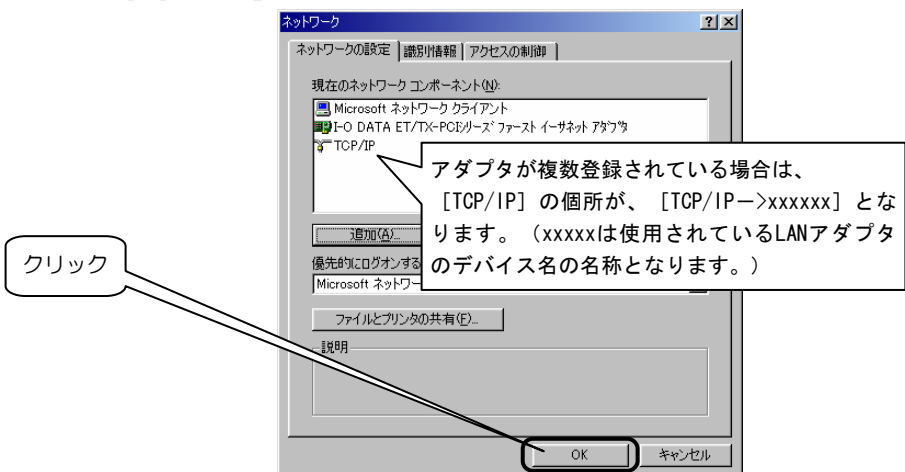
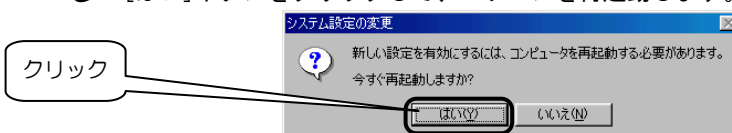
[TCP/IP]が表示されていない　(Windows Me/98 SEの場合)

原因	TCP/IPプロトコルがインストールされていない。
対処	下記の手順でTCP/IPをインストールします。

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

2 [追加]ボタンをクリックします。

※以下の画面は、弊社製ET/TX-PCIシリーズを例にしています。

3 [プロトコル]を選択し、[追加]ボタンをクリックします。

4 [Microsoft]の[TCP/IP]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

5 [OK]ボタンをクリックします。

アダプタが複数登録されている場合は、[TCP/IP] の個所が、[TCP/IP―>xxxxxx] となります。（xxxxxは使用されているLANアダプタのデバイス名の名称となります。）

6 [はい]ボタンをクリックして、パソコンを再起動します。

PPPoE認証でインターネットに接続できない

原因１	モデム(ONU)が正しく接続されていない。
対処	本製品の[WAN]ランプが点灯していることをご確認ください。 点灯していない場合は、モデム(ONU)の接続と電源が入っていることをご確認ください。 モデムのファームウェアをアップデートできる場合は、ファームウェアアップデートしてください。方法については、モデムの取扱説明書をご覧ください。

原因２	［WAN］側でPPPoE接続の設定が有効になっていない。（PPPoEの認証に失敗している。）
対処	設定画面の[基本設定]→[WAN側設定]→[PPPoE認証接続]で［ユーザー名］と［パスワード］などの設定を再度確認してください。（ユーザー名は、NTTフレッツシリーズの場合、@ から後ろもすべて入力します。）

原因３	本製品に接続したパソコンのTCP/IP設定に誤りがある。
対処	パソコンの TCP/IP 設定をご確認ください。 ⇒本製品の DHCP 機能を利用して、IP アドレスを自動的に取得している場合は、IP アドレスの解放と書き換えを行ってください。 （131 ページの【参考】をご覧ください。） ⇒IPアドレスを固定で設定している場合は、パソコンに設定したIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバのアドレスを確認してください。

原因４	ADSLモデム(ブリッジタイプ)を使用するが、PPPoE認証を使用しないプロバイダである。
対処	PPPoE 認証を行わない場合は、ADSL モデム(ブリッジタイプ)であっても PPPoE の設定を行う必要はありません。 設定画面の[基本設定]→[WAN側設定]→[IPアドレス自動取得]/[IPアドレス固定設定接続]で設定してください。（63または65ページ参照）

原因５	使用しているADSLモデムがルータタイプのモデムである。
対処	ルータタイプの ADSL モデムと接続する場合には、PPPoE の設定を行う必要はありません。 設定画面の[基本設定]→[WAN 側設定]→[IP アドレス自動取得]/[IP アドレス固定設定接続]で設定してください。（63 または 65 ページ参照）

原因６	回線が不安定である。
対処	モデムを再起動（リセット）してみてください。方法についてはモデムの取扱説明書をご覧ください。 その後インターネットに接続できるかをご確認ください。 接続できない場合は、リセット後モデムの電源を切り、しばらく時間をおいてからお試しください。

IPアドレス自動取得/固定設定接続でインターネットに接続できない（IPアドレスが取得できない）

原因１	回線が不安定である。
対処	モデムを再起動（リセット）してみてください。方法についてはモデムの取扱説明書をご覧ください。 その後、インターネットに接続できるかをご確認ください。 接続できない場合は、リセット後モデムの電源を切り、しばらく時間をおいてからお試しください。

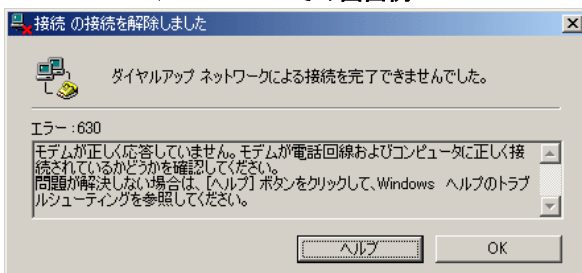
原因２	（Cタイプ：IPアドレス固定設定接続の場合のみ） [WAN]ポートにIPアドレスが設定されていない。
対処	設定画面で本製品のWAN側IPアドレスをプロバイダ指定のものに設定してください。設定画面の[基本設定]→[WAN側設定]→[IPアドレス固定設定接続]で設定してください。（65ページ参照）

原因３	本製品に接続したパソコンのTCP/IP設定に誤りがある。
対処	パソコンの TCP/IP 設定をご確認ください。 ⇒本製品の DHCP 機能を利用して、IP アドレスを自動的に取得している場合は、IP アドレスの解放と書き換えを行ってください。 （131 ページの【参考】をご覧ください。） ⇒IPアドレスを固定で設定している場合は、パソコンに設定したIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバのアドレスを確認してください。

原因４	プロバイダからIPアドレスを取得できていない。
対処	プロバイダによっては、MAC アドレスを登録したネットワーク機器しか接続できない場合があります。 MAC アドレスは、LAN ボード/カードや本製品などにそれぞれ別々の値が設定されていますが、プロバイダ側が本製品導入以前に接続していたパソコンの LAN ボード/カードの MAC アドレスを登録したままにしていると、本製品を導入してもプロバイダ側が本製品の MAC アドレスを認識しません。プロバイダへ本製品の MAC アドレスに登録を変更する手続きを行ってください。 本製品のMACアドレスは本体背面のシールか、設定メニューの[ステータス情報]で確認することができます。

ブラウザを起動すると、以下のエラーが表示される

「モデムが正しく応答していません。モデムが電話回線およびコンピュータに正しく接続されているかどうかを確認してください。」（以下の画面）

▼Windows Meでの画面例

原因	Webブラウザがダイヤルアップする設定となっている。
対処	【設定画面が表示されない】の原因５（132ページ）をご覧ください。

暗号化（WEP）を使用したら通信速度が低下した

原因	暗号化通信では、送信するデータをすべて暗号化／復号化する必要がありますので、通信速度が若干低下する場合があります。

他のアクセスポイントと無線通信できない

原因	本製品同士を含むアクセスポイント同士の無線通信はできません。

無線LAN製品側のパソコンと通信できない

原因１	無線LAN製品側パソコンの無線の設定が正しくない
対処	無線LAN製品側のモードが[Infrastructure]になっていることと、SSIDが本製品の値と同じになっていることを確認してください。

原因２	暗号キーの設定があっていない
対処	本製品と無線LAN製品側の暗号キーの設定を同じ暗号キーにしてください。

原因３	パソコンのIPアドレスの設定が正しくない
対処	⇒本製品のDHCP機能を利用してIPアドレスを取得している場合は、本製品の電源が入っていることを確認してから、パソコンの電源を入れてください。または、以下の条件のIPアドレスに手動設定してください。 ”本製品が割り当てるIPアドレスと同一クラス”　かつ ”本製品が割り当てるIPアドレスの範囲外” ⇒固定のIPアドレスを設定する場合は、本製品のIPアドレスと同一クラスのIPアドレスを設定してください。

原因４	無線LAN製品側のパソコンがWindows Me/98 SEの場合で、正常にログインしていない（パソコン起動時の［ユーザー名］［パスワード］の入力画面で［キャンセル］ボタンをクリックしているなど）
対処	パソコン起動時の［ユーザ名］［パスワード］の入力画面で正しい［ユーザ名］［パスワード］を入力してください。

原因５	電波の状態が悪い
対処	無線LAN製品と本製品間の距離を短くしたり、障害物を取り除いて見通しをよくしたり、チャンネルを変更してみてください。

原因６	MACアドレスなどで接続制限されているLANアダプタから通信している
対処	接続制限を解除してください。（【アクセス制限】81ページ参照）

無線LAN製品側のパソコンとの通信速度が遅い、不安定

原因１	電波の状態が悪い
対処	無線LAN製品と本製品間の距離を短くしたり、障害物を取り除いて見通しをよくしたり、チャンネルを変更してみてください。

原因２	ノートパソコンで省電力機能が有効になっている
対処	省電力機能の設定を無効にしてください。（詳しくはパソコンの取扱説明書をご覧ください。）

用語解説

10BASE-T

ツイストペアケーブル（10BASE-T ケーブル）を使用した Ethernet の通信方式の一つで、最大伝送速度は 10Mbps です。

100BASE-TX

ツイストペアケーブル（100BASE-TX ケーブル）を使用した Ethernet の通信方式の一つで、最大伝送速度は 100Mbps です。

Ad hoc

「アドホック」といい、アクセスポイントを介さずに、パソコン同士が直接通信しあう形態です。
他にインフラストラクチャモード（Infrastructure mode）があります。

ADSL　*(Asymmetric Digital Subscriber Line)*

従来の電話回線（メタルケーブル）を利用し、専用のモデムで高速なデータ伝送を可能にしたデジタル技術の１つです。

CATV　*(CAble TV)*

同軸ケーブルによって接続した限定地域に対して、多様なサービスを提供する TV 放送システムです。

DHCP　*(Dynamic Host Configuration Protocol)*

自動的にネットワークの設定を行うプロトコル（通信手順）のことです。
DHCP サーバーはネットワークの DHCP クライアントに対して、自動的にネットワークの設定を行います。

DMZ　*(DeMilitarized Zone)*

Web、DNS、FTP などの公開サーバをインターネット側からの不正な攻撃から守るため、ファイヤウォールにより設けられたセグメントです。

DNS　*(Domain Name System)*

TCP/IP ネットワークで使われ、コンピュータについた名前と実際の IP アドレスを関連付けるシステムです。

DNS サーバ

ネットワークのグループについた名前を問い合わせると、その IP アドレスを教えてくれるサーバのことです。DNS サーバを使用することにより、WWW ブラウザ等のアドレス入力欄でアドレスを文字で入力することができます。
（IP アドレスの数値を直接入力する必要が無くなります）

DS-SS　*(Direct Sequence-Spread Spectrum)*

「直接拡散・スペクトラム拡散」方式といい、無線通信における変調方式の１つです。干渉がおきにくい、ノイズの影響を受けにくい、などの特徴があります。

Ethernet

Xerox 社、DEC 社、Intel 社の 3 社が仕様を開発した LAN の通信方式で、100BASE-TX、10BASE-T があります。

FTTH　*(Fiber To The Home)*

光ファイバーを用いた高速デジタル通信網を個々の家庭まで敷設する通信ネットワーク構想です。

IEEE802.11

IEEE（The Institute of Electrical and Electronics Engineers,Inc.）という非営利団体が定める無線LANの国際的な標準規格です。
IEEE802.11bでは、通信速度が11Mbpsまで拡張されています。
IEEE802.11gとIEEE802.11aでは、通信速度が54Mbpsまで拡張されています。

Infrastructure

「インフラストラクチャ」といい、アクセスポイントを介して通信する無線 LAN の形態のことです。

IP アドレス

TCP/IP プロトコル（インターネットで使用されている規約）を使用して構築されるネットワークで、接続されている全ての機器を区別するために付けられるアドレス（番地）のことです。

IP マスカレード

プロバイダから提供された一つのグローバル IP アドレスを複数のプライベート IP アドレスへ変換し、同時に複数台のコンピュータでインターネットに接続できるようにする機能です。NAT とは異なり、同時にインターネットへ接続できるコンピュータの台数は、プロバイダから提供されたグローバル IP アドレスの数には依存しません。
ただし、IP マスカレードでは正しく動作しないアプリケーションもありますので、その場合は NAT を使用します。

ISP　*(Internet Service Provider)*

インターネット・サービス・プロバイダの略称です。（単にプロバイダと呼ばれることが多い）
企業や個人に対しインターネットへ接続する通信サービスを提供する回線業者のことです。

LAN　*(Local Area Network)*

ローカル・エリア・ネットワークの略称です。小規模なコンピュータネットワークのことです。
LAN に対して WAN(Wide Area Network)があり、WAN は LAN 同士を結ぶ大規模なネットワーク（インターネット等）のことです。

MAC アドレス　*(Media Access Control Address)*

Ethernet 機器ごとの固有の物理アドレスです。
MAC アドレスは、先頭からの３バイトのベンダーコードと残り３バイトのユーザコードの６バイトで構成されています。
ベンダーコードはIEEEが管理／割当を行っており、ユーザコードは、Ethernet機器の製造メーカが独自の番号（重複することのない）で管理を行い、世界中で単一のアドレスが割り当てられています。Ethernetではこのアドレスを元にしてフレームの送受信を行っています。

NAT (*Network Address Translator*)

LAN で使用しているプライベート IP アドレスをインターネットで使用できるグローバル IP アドレスへ変換することにより、プライベート IP アドレスしか持たない LAN のコンピュータからインターネットへ接続できるようにする機能です。
NAT の場合、プライベート IP アドレスとグローバル IP アドレスは 1 対 1 で対応していなければなりません。同時にインターネットへ接続できるコンピュータの台数は、ISP や RAS サーバーから提供されたグローバル IP アドレスの数に依存します。

OFDM (*Orthogonal Frequency Division Multiplex*)

直交周波数分割多重のことです。

POP (*Post Office Protocol*)

電子メールをスプールしているシステムから、TCP/IP プロトコルを使ってメール
スプールの内容を読み出すためのプロトコルです。
プロトコル仕様は RFC1939 で定義されています。
POP3 サーバとは受信メールサーバのことを指します。

PPPoE (*PPP over Ethernet*)

ネットワーク（Ethernet）上で、ダイヤルアップ接続（PPP 接続）のような利用者のユーザー名、パスワードのチェックを行うために作り出された規格です。

SMTP (*Simple Mail Transfer Protocol*)

電子メールを送信するためのプロトコルです。
プロトコル仕様は RFC821 などで定義されています。
SMTP サーバとは送信メールサーバのことを指します。

SS ID (*Service Set ID*)

複数の無線ネットワークが存在する場合に、それらをグループ化するための識別子（ID）です。
SS ID が一致していないとそのネットワークには参加できません。

TCP/IP　(*Transmission Control Protocol / Internet Protocol*)

通信プロトコルの１つ。
最も普及しているプロトコルで、インターネット上の通信にも使われています。

Telnet

遠隔地からほかのコンピュータにログインして、遠隔操作を行なう仮想端末プロトコルです。
プロトコル仕様はRFC854で定義されています。
テキストベースの通信を行ない、コマンドを送信する際にはエスケープコードを利用します。一般的にはTCP/IPのポート番号23番を使用します。

WAN　(*Wide Area Network*)

通常はLANに対比して使用される言葉で、遠隔地にあるコンピュータ同士（LAN同士）を公衆回線網を使って接続したネットワークのことです。

WEP　(*Wired Equivalent Privacy*)

IEEE802.11bに含まれる標準の暗号化方式です。
各無線通信機器同士が共通の暗号鍵を使用して通信データを暗号化します。
暗号鍵を知らないパソコンは通信に参加することができません。

xDSL　(*x Digital Subscriber Line*)

ADSLやSDSL、HDSL、VDSLなどを総称して呼ぶ言葉です。

アクセスポイント

インフラストラクチャモード（Infrastructure mode）での通信の中継点となるポイントです。
他のパソコンでは、アクセスポイントと通信することで他のパソコンと通信します。
有線LANと無線LANの中継点ともなります。

クライアント

ネットワーク内で、サービスを受ける側のことです。

グローバルIPアドレス

インターネットを使うことを許されたIPアドレスです。

ゲートウェイ

通信手順の異なるネットワーク同士を接続するための機器やシステムです。
ゲートウェイに該当する機器のIPアドレス（ゲートウェイアドレス）をゲートウェイと呼ぶこともあります。

サーバ

ネットワーク内で、他のパソコン（クライアント）からの要求を受け、サービスを提供する側のコンピュータのことです。

サブネットマスク

LANで使用可能なアドレスの範囲を決めるために、IPアドレスと組み合わせる値です。

スタティックルーティング

ルーティングするための情報をあらかじめルータに設定しておき、常に決まったルートを通って目的のノード（ネットワークに接続されているコンピュータ等）へパケット（ネットワーク内を流れるデータ）を送る方法です。
静的ルーティングとも呼びます。

セッション

TCP/IP プロトコルによるデータ処理の単位です。

ダイヤルアップ IP

インターネットへ接続する際に、モデムや TA 等で ISP へ電話をかけて接続する方法です。

チャンネル

無線通信では、使用する周波数帯域を分割して、それぞれの帯域で異なる通信を行うことができます。
チャンネルとは、その分割された個々の周波数帯域のことです。

パケット

ネットワーク内を流れるデータです。

パケットフィルタ

ルータの機能を強化して、個々のパケットの単位で通過させたり、禁止したりできるようにしたものです。

ハブ

10BASE-T ケーブル（RJ-45 規格）を複数本集めて、通信を行うための LAN 機器（集配線装置）です。

ピアツーピア接続

サーバ／クライアントのような上下関係の無い対等な関係で行う通信のことです。

ファイアウォール

組織内外からの通信すべてに対して、通過させたり、禁止したりすることによって、必要なサービスだけをユーザーに提供しつつ、セキュリティを確保します。名前の由来は「防火壁（firewall)」にちなんでいます。

ファームウェア

本製品内部で動作し、本製品のコントロールを行うプログラムです。

プライベート IP アドレス

組織内部のネットワークアドレスとして、自由に利用できる IP アドレス。
以下のものが利用できるとされています。

ClassA　:　10.0.0.0～10.255.255.255
ClassB　:　172.16.0.0～172.31.255.255
ClassC　:　192.168.0.0～192.168.255.255

ブリッジ

LAN のセグメント間を相互接続する機器で、OSI 参照モデルのデータリンク層で動作します。
パケットの衝突(コリジョン)が増え、パフォーマンスが低下するという事態を回避するためコリジョンドメインを制限して、ネットワークを効率化するために作られたネットワーク機器です。

リンク

各機器間を接続することです。

ルータ

複数の LAN 等、ネットワークを相互に接続するための機器です。
異なるネットワーク間の中継点に設置して、ネットワークを介して送信されるデータをきちんと目的の場所に届ける役目を持っています。
ネットワーク内を流れてきたデータが外部のネットワーク宛であれば、ルータはそのデータを外部に送り出します。
ルータはそのときにどういう経路でデータを配信するかまで判断し、最適なルートに送り出しています。
必要によっては通過させるデータやプロトコルの種類を制限することも可能です。

ルーティング

ネットワークのパケットを、正しく目的ノード（ネットワークに接続されている機器）へ届くように制御することです。

ローミング

複数のアクセスポイントを設置した環境で、各アクセスポイントのサービスエリア間を移動した場合に、自動的にアクセスポイントを切り替える機能です。
その場合、それぞれのアクセスポイントのSS IDとWEPが同じ設定である必要があります。

バーチャルサーバ（仮想サーバ）

「バーチャルサーバ機能」といい、本製品ではWeb、DNS、FTPなどのサーバをインターネット上へ公開する場合に使用します。

仕様

●ハードウェア仕様

商品名	IEEE802.11b 無線LAN アクセスポイント付ブロードバンドルータ
製品型番	WN-B11/R
■WAN側ネットワーク部	
インターフェイス	RJ-45×１
準拠規格	IEEE802.3（10BASE-T）、IEEE802.3u（100BASE-TX）
クロス/ストレート自動判別	可能
■LAN側ネットワーク部	
インターフェイス	RJ-45×4（4ポートスイッチングハブ）
準拠規格	IEEE802.3（10BASE-T）、IEEE802.3u（100BASE-TX）
クロス/ストレート自動判別	全ポート可能
■無線LAN側ネットワーク部	
準拠規格	IEEE802.11b,RCR STD-33,ARIB STD-T66
周波数帯域	2.4GHz帯　（2.4～2.4835GHz）
チャンネル	1ch～14ch
伝送方式	直接拡散・スペクトラム拡散方式(DS-SS)
伝送速度	1/2/5.5/11Mbps
変調方式	DBPSK,DQPSK,CCK
データ到達距離（最大）	屋内：約60m、屋外：約150m（環境により変化します。）
無線設備の種別	小電力データ通信システム
アンテナ方式	外付け可動式アンテナ×1
■その他の仕様	
ＬＥＤ表示	POWER,STATUS,WLAN,LAN1～4,WANランプ
ACアダプタ	入力：AC100V、出力：DC 5V　2.0A
電源電圧	DC 5V±5%
消費電流	最大 1.3A
リセットスイッチ	タクトスイッチ型、出荷時設定復帰用(背面)
動作温度範囲	0℃～40℃
動作湿度範囲	20%～80%（結露しないこと）
外形寸法	約31(W)mm×122(D)mm×175(H)mm(アンテナ、スタンド含まず)
質量	約 290 g（本体のみ）

●本製品の初期値（出荷時設定）

項目		初期値
WAN側設定	接続方法	IPアドレス自動取得接続
	IPアドレス	IPアドレス自動取得
	DNS(ネーム)アドレス プライマリ	0.0.0.0（自動取得）
	DNS(ネーム)アドレス セカンダリ	0.0.0.0（自動取得）
LAN側設定	ホスト名	（設定なし）
	IPアドレス	192.168.0.1
	サブネットマスク	255.255.255.0
	DHCPサーバ	有効
	→開始IPアドレス	192.168.0.2
	→終了IPアドレス	192.168.0.32
	ドメイン名	（設定なし）
	リース時間	1日
無線LAN側設定	SSID	default
	チャンネル	6
	WEP	無効
アクセス制御	MACフィルタ	無効
	IPポートフィルタ	無効
	URLフィルタ	無効
	仮想サーバ	無効
	特殊アプリ	無効
	DMZ	無効
管理設定	HTTP設定	無効
	WANポートPing拒否	有効
	IPSecパススルー	有効
	PPTPパススルー	有効
	PPPoEパススルー	無効
	UPnP	有効

●機能仕様

■ルータ部	
ルーティング プロトコル	TCP/IP
設定プロトコル	HTTP(Webブラウザ設定) セキュアホスト設定によるリモート設定可能
アドレス変換	NAT/IPマスカレード
IPセッション数	最大1024セッション
ファイヤウォール 機能	MACアドレス接続制限 パケットフィルタリング
IPポートフィルタ	最大5エントリ (ポート番号、IPアドレス、プロトコル種別[TCP/UDP]での設定)
URLフィルタ	最大20エントリ
MACアドレスフィル タ	最大50エントリ
仮想サーバ	最大10エントリ
特殊 アプリケーション	最大10エントリ
DMZホスト登録機能	あり
ファームウェア アップデート	Webブラウザより可能
■WAN側ネットワーク部	
接続方式	常時接続、オンデマンド接続 (IPアドレス自動取得/固定設定接続、PPPoE認証接続)
IPアドレス取得 方法	PPPoEクライアント機能 DHCPクライアント機能 IPアドレス固定割当機能
対応プロトコル	TCP/IP
PPPoEセッション数	1セッション
■有線LAN側ネットワーク部	
IPアドレス自動割 当(DHCP)	DHCPサーバ機能(最大253割当、無線LANと共用)
対応プロトコル	TCP/IP、IPX/SPX、NetBEUI、AppleTalk
■無線LAN側ネットワーク部	
IPアドレス自動割 当(DHCP)	DHCPサーバ機能(最大253割当、有線LANと共用)
対応プロトコル	TCP/IP、AppleTalk
無線部 セキュリティ	暗号化方式:WEP(Wired Equivalent Privacy) 64/128bit 接続制限:MACアドレスフィルタ

アフターサービス

① まず、弊社ホームページをご確認ください。

本書【困った時には】で解決できない場合は、サポートWebページ内の「製品Q&A、Newsなど」もご覧ください。過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。

http://www.iodata.jp/support/

製品Ｑ＆Ａ
Newsなど

ファームウェアをバージョンアップすることで解決できる場合があります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のファームウェアをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/

最新
ファームウェア

② それでも解決できない場合は…

住所： 〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第２ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　サポートセンター

電話： 本社…**076-260-3644**　東京…**03-3254-1144**
※受付時間　9:30～19:00　月～金曜日（祝祭日を除く）

FAX： 本社…**076-260-3360**　東京…**03-3254-9055**

インターネット： http://www.iodata.jp/support/

・お知らせいただく事項について

サポートセンターへお問い合わせいただく際は、事前に以下の事項をご用意ください。

1．ご使用の弊社製品名
2．ご使用のパソコン本体の型番
3．ご使用のOSのバージョン
4．トラブルが起こった状態、トラブルの内容、現在の状態（画面の状態やエラーメッセージなどの内容）

修理について

修理の前に

故障かな？と思ったときは、
①本書をもう一度ご覧いただき、設定などをご確認ください。
②弊社サポートセンターへお問い合わせください。

故障と判断された場合は、下記内容を参照して、本製品をお送りください。

修理について

本製品の修理をご依頼される場合は、以下の事項をご確認ください。

●お客様が貼られたシールなどについて

修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。
その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。

●修理金額について

・保証期間中は、無料にて修理いたします。
ただし、ハードウェア保証書に記載されている「保証規定」に該当する場合は、有料となります。
※保証期間については、ハードウェア保証書をご覧ください。

・保証期間が終了した場合は、有料にて修理いたします。
※弊社が販売終了してから一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

・お送りいただいた後、有料修理となった場合のみ、往復はがきにて修理金額をご案内いたします。
修理するかをご検討の上、検討結果を記入してご返送ください。
（ご依頼時にFAX番号をお知らせいただければ、修理金額をFAXにて連絡させていただきます。）

修理について（つづき）

修理品の依頼

本製品の修理をご依頼される場合は、以下を行ってください。

●メモに控え、お手元に置いてください

お送りいただく製品の製品名、シリアル番号、お送りいただいた日時をメモに控え、お手元に置いてください。

●これらを用意してください

・必要事項を記入した本製品のハードウェア保証書（コピー不可）
※ただし、保証期間が終了した場合は、必要ありません。

・下の内容を書いたもの
返送先［住所/氏名/(あれば)FAX番号］,日中にご連絡できるお電話番号,
ご使用環境（機器構成、OSなど）,故障状況（どうなったか）

●修理品を梱包してください

・上で用意した物を修理品と一緒に梱包してください。

・輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材にて梱包してください。
※ご購入時の箱・梱包材がない場合は、厳重に梱包してください。

●修理をご依頼ください

・修理は下の送付先までお送りくださいますようお願いいたします。
※ 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様ご負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。

・送付の際は、紛失等を避けるため、宅配便か書留郵便小包でお送りください。

送付先　〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　修理センター　宛

修理品の返送

・修理品到着後、通常約１週間ほどで弊社より返送できます。
※ただし、有料の場合や、修理内容によっては、時間がかかる場合があります。